

事業趣旨をふまえた議論期待！

区画整理記念事業「ワーキング」が進展

戦後の焼け野原から水害に強い港区の土台を造った「港地区復興土地区画整理事業」（一九四八―九二）の足跡を記念施設として残そうという計画の骨子（弁天町駅前に交流会館と拠点病院を一体で整備）が決定されたのを受け、交流会館の事業内容などを区役所と共に検討するワーキングメンバー二十三名（公募区民十九名、区長推薦委員四名）の第一回会合が九月十四日に行なわれました。あと二回の会合やパブリックコメント（意見公募）を経て今年度中に事業内容が決定される予定ですが、港区の歴史と同事業の趣旨をふまえた「歴史展示こそ施設の核に」という方向へ議論が進むことが期待されます。会合の様子から今後の進展を探ってみました。

交流やイベントも大事だが…歴史展示こそ核に

検討ワーキングメンバーの第一回会合は九月

十名が参加しました。

十四日（日）夜、港区役所で開催。二十二名中、二

◆区長は再度「港区の歴史」強調

田端尚伸・港区長があいさつ。この中で区長は「港区の歴史は、戦後四十五年かけて

区民と行政が力を合わせ、区域の約九割を約一
 以盛土・高上げし、水害に強い安全・安心な街を
 造り上げた『港地区復興・干地区画整理事業』の
 歴史を抜きには語れない。その中で先達（地権
 者）が残してくれた弁天町駅前土地と資金
 を使えぬことになった。こんな幸せな区はな
 と港区の歴史を強調。その上で、「これを港区の
 将来に回すこの財産となる施設として区民に
 還元されるよう、意見やアイデアを出してほ
 う」と活発な議論を呼びかけました。

◆ 全体で意見交換

続いて区役所から、第一回ワーキングを踏ま
 え、「交流会館の使い方」などについて意見が求



→戦後港区の区画整理の歴史を強調し、活発な
 議論を呼びかける田端尚伸区長 〓九月十四日

められました。参加者からは「区長が強調され
 たように、戦火や水害を乗り越えてきた港区の
 歴史が分かるような施設にするべきだ」「絵本の
 読み聞かせや人形劇などを子供を対象にした活動
 が周囲への気兼ねなくできるような防音などを
 施した場を作してほしい」「ふれあい福祉の
 広場」など参加者が千人を超えるイベントでも
 安全に運営できるよう、ホールの広さや駐輪ス
 ペースなどゆとりある会場がほしい」「ハード
 面の骨格が決まっていないのが気になる。最上
 階には大ホール、一階にはカフェスペース、エ
 ントランスは明るく広く、地下一階には多目的
 ホール、防災面では病院との連携を。その隙間の
 部分を我々が色々と考えていくべきではないだ
 ろうか」などの声が出されました。

◆ ニグループで「交流」「運営」論議

このあと、ニグループに分かれて「交流」と
 「運営」にテーマを絞り、「誰と誰がどんな交流
 をするか」「そのためにどんな設備が必要か」を
 カードに書き入れたり組み合わせたりしながら
 意見交換をする「グループワーク」が提案され、
 進行役は第一回に続いて佛地域計画建築研究所

←検討ワーキングメンバー二十名がニグループ
 に分かれての議論風景 〓港区役所五階



社員が担当。約一時間にわたって論議が行なわ
 れたあと、各グループ代表から次のように論議
 内容の発表がありました。

◆ 「地域団体も運営」とのグループ

〇グループからは「障害者や高齢者の目線に
 立ったバリアフリーを考へるべき」「港区民を優

マイナンバー！

（こし まやとこし）

小西 正敏さん（六四歳、田中）



マイナンバー制度

リスクはないのか

全ての国民の住所に宛てて一人ひとりの異なる十二桁の個人番号（マイナンバー）が十月五日から通知されています。一月からはこの番号を記したカードが申請に当たりの無料で交付されます。そして将来的にはこのカードに「病歴や年金や納

税などあらゆる情報が入るとされています。

◆「便利」「効率」を強調するが…

一体何のためでしょう。国の冊子は、①公平・公正な社会の実現②国民の利便性の向上③行政の効率化とその目的が明記されています。また総務省パンフレットは、①個人番号を証明する書類として②本人確認の際の身分証明書としての様々なサービスがこれ一枚で④各種行政手続きのオンライン申請⑤各種民間のオンライン取引⑥「コンビニ」など各種証明書を「バーバラ色のメリットが並べられています。

確かに国民の情報が一元管理をすることで生活が便利になり、行政が効率化されるのであれば、それはそれで素晴らしいでしょう。しかし事はそんなに単純ではないように思えます。

◆本質の狙いは国民総じらぬ

本質の問題なのは本質の狙いがマイナンバーの活用によるのです。それは国民一人ひとりの保険料や税の納付漏れがないかを厳しく管理する手段であり、そのことと内閣府が社会保障改革推進室の「これからはマイナンバーをキーとする管理が必要」といって警告がびびり、不正を防止するとの説明は

も明らかです。要するに国民のためではなく国民を搾り取りますという狙いが明白です。

◆新たな番号の必要性の何が

次に問題なのは、現在それなりに役割を果たしている保険証などで様々な個人番号の上になぜわざわざ番号を受け取る必要があるのかというのです。しかもこうした現行の個人番号とマイナンバーがどう連携し、どう管理されるのかについて、一体どれだけの国民が正しく理解されているのか、はなはだ疑問です。

◆情報漏れへの懸念は

その上更に懸念されるのは厚労省の年金情報大量漏れいの後始末が今も続いていることです。こんな危惧しい情報管理の上に新たな情報を膨大に積み上げ、果たして安心な国民生活が可能でしょうか。悲惨な結果は目に見えています。

以上のような疑念を解消するために説明会は開かれるのか。港区役所に問い合わせ、その予定はない。国からも指示はないという返事でした。国が二分された安保法制に劣らず、この制度も国民に深刻な影響を及ぼすことが懸念されます。読者の率直な意見をの聞きかけられて。

長年の貢献お疲れ様

敬老の日 各地区で祝賀会



→ 地域あげてのもてなしが温かかった弁天校下の「敬老大会」（写真は舞台の催しに拍手を贈る参加者） 〓九月二十三日、港区民センター

長年の社会貢献お疲れ様でした。「敬老の日」の九月二十一日を中心に、港区でも各地域

（築港を除く十地域）で敬老の催しが行なわれ、七十歳以上の二万三三五五人（港区地域振興会

女性部調べ）昨年より五十二人減。実数は一致しない）が長寿を祝福されました。

● 弁天では四百人が参加

このうちシルバーウィーク（九月十九〜二十

三日）の最終日である九月二十三日（水祝）午後

に港区民センターで行なわれた「弁天校下敬老大会」には弁天一〜六丁目の七十歳以上約千五

百人のうち約四百人が参加しました。主催は弁天社会福祉協議会と弁天地域活動協議会。運営

には敬老大会実行委員会（弁天連合振興町会・民生委員会・保護司会・女性会・更生保護女性会・

ネットワーク委員会・青少年福祉委員会・青少年指導員・子ども会・弁天小学校PTA・生涯学習

ルーム・弁天会から成る）があたりました。

● 千五百人に案内
第一部の式典は吉田清子さんの司会で進行。実行委員会を代表して小川宏・実行委員長が「昨年は千四百人に案内を出したが、今年は千

「主催者を代表して挨拶する上田哲夫・弁天社会福祉協議会会長」と、小川宏・実行委員長



五百人に増えた。そのため金婚や米寿への祝いはやめ、演芸会や抽選会に予算を割いた。また

初めて大阪市消費者センターに参加いただき、横行する詐欺にひっかからないよう寸劇で注意

を呼びかけてもらう。不審な電話などあればすぐに同センターへ連絡を」と呼びかけました。

● 気持ちがかもった大会に
また主催者を代表して上田哲夫・弁天社会福祉協議会会長が「皆さんの希望を入れて、敬老の日ではな〜シルバーウィーク最終日の開催とした。運営には善悪両立が使われ、社会福祉協議会など各種団体の協力があり、歌や踊りにも

多くの参加を得て、皆さんの気持ちがかもった敬老大会となった。港区でも四人に一人が六十五歳以上。今年は予算の関係で金婚夫婦や米寿

五歳以上。今年は予算の関係で金婚夫婦や米寿

者への祝いを廃止したが、ますますの活躍を願っている」と祝意を表しました。

● キョウインフとキョウインウを

次に来賓を代表して小林猛・弁天小学校校長が「いつも子供たちを見守っていただき感謝している。十月四日の運動会にはぜひご来場を。上から見ると皆さん本当に若々しい。全国で百歳以上は八万人超、港区でも二十人超、弁天にもおられるはず。健康にはキョウインウをきょう用事がある」とキョウインウをきょう用所があることが大切という。何でもいいから体を動かし、健康と長寿を」と参加者を激励しました。

● 心豊かに暮らせる港区へ

同じく来賓を代表して田端尚伸・港区長は「戦後七十年。日本の平和と経済復興への貢献



→ 来賓あいさつを述べる小林猛・弁天小学校校長

長①と田端尚伸・港区長②

に感謝したい。港区では八万三千人のうち一万二千人が六十五歳以上。うち百歳以上は三十三人で、うち女性が三十二人。最高齢者は百四歳の女性。大切なのは健康寿命。まずは家を出て、健康と生きがいづくりの活動を。そついで姿が若い世代に大切なことを伝える。地域の結びつきが強い港区の特長を生かし、より安心して生き生きと心豊かに暮らせる港区へ、区役所も汗を流していきたい」と祝意・決意を述べました。

● 心づくしの出し物が次々

第一部・漣云天会は弁天小学校PTAの菅田さんと柏木さんの司会で進行。地域のみなさんの心づくしの出し物が次々と登場しました。

このうち弁天小学校生涯学習ルームは島田康子講師のリードで「やさしい操整体」を、フラサークル「フルメリア」(富長信子講師)はフラダンスを、合唱サークル「弁天サマーズ」(磯島朋子講師)はコーラスを、それぞれ披露。また、弁天島寿会(八木島寿講師)は日本民謡を、ダンスグループ「ファンキー」(十居順子講師)はストリートダンスを、大阪消費者センターは詐欺から身を守ることを呼びかける寸劇を、それぞれ

← 参加者を楽しませた出し物。上は「やさしい操整体」、下は「フラダンス」



れ上演。最後は会場全体で『ひまわり』を合唱。抽選会の盛り上がりの中で幕を閉じました。

● 温かさと誠実さ

全体を通じて、会場では町会女性部や女性会ネットワーク委員の女性たちが受付や来場者の世話をする光景が温かく、舞台袖で青少年福祉委員や青少年指導員の男性たちが進行や音響や段帳の上げ下げに汗を流す姿からは高齢者への地域の敬意が窺えました。

また閉会手前、席を立つ姿はほんのりと見られず、戦後日本を築いてきた高齢者への地域拳げでもてなしの温かさと共に、参加した高齢者の側の誠実な姿勢も強く感じられた催しでした。

健全な遊びが一杯！

秋空の下「わんぱくまつり」超活況



→秋空の下、工夫された健全な遊びに港区じゅうの子供たちが歓声を上げた「みなとわんぱくまつり」は九月二十日、八幡屋公園芝生広場

「子供たちに健全な遊びと親子ふれあいの場

を」と九月二十日(日)、八幡屋公園芝生広場で

「みなとわんぱくまつり」が開かれました。三

十四回目。主催はみなとわんぱくまつり実行委

員会(公募委員)より構成)と港区役所。

爽やかに晴れ上がった秋空の下で港区じゅう

の子供や親子連れが、よく工夫された遊びや健

康的な飲食を楽しみました。

◆友だちつくりと親子ふれあいの場

朝十時からの開会式では瓜生由美・副実行委

員長の開会宣言に続いて南市岡地域活動協議会

の子供ら十九人のダンスチーム「いきいきキッ

ズ」が元気なダンスを披露。主催者を代表して

川淵信彦・実行委員長が「楽しい遊びを一杯用

意した。友だちつくりと親子ふれあいの場」に

田端尚伸・港区長が「数年前までは子ども会だ

けの行事だったが、今は子供なら誰でも参加で

きる。運営も区民団体による実行委形式となっ

て育成の輪を広げている」と、武智厚義・港区「ミ

ユニティ育成会議議長が「元気に楽しく遊ぼう」

来賓を代表して山本長助・市会議員が「懐かし

い遊びが一杯。友だちをたくさん作って」とそ

→主催者を代表してあいさつする川淵信彦・実

行委員長(上)と田端尚伸・港区長(下)



れぞれ挨拶しました。

来賓紹介、マスコットキャラクター(港区の

「みなりん」、大阪フールの「おきぷり」紹介

に続いて、参加の子供たちを代表して長谷川

新くんあいたと小池舟くんせうしゅう(共に築港小六年、築港

子ども会)が「今日はわんぱくまつりを開催し

て頂き、ありがとうございます。各校下の遊び

コーナーで楽しみたいです。港区の他の小学校

の友だちと一日楽しく過ごしたいです」とお礼

の言葉を元気よく読み上げました。

大阪芸術大学ダンスグループによる華やかな

ダンスパフォーマンスの後、久保敬一・港区子

ども会育成連合会副会長から五項目の注意(①

全ての遊び「コーナー」に使える一枚百円の参加手

ケットをまず買おう②遊びコーナーで遊んだらそのついでスタンプを押してもらおう③全ての遊びコーナーのスタンプを押してもらった人は十四時半から景品が当たる抽選会に参加できるの
でカードの通し番号を確認しておこう④「みは必ず年・ハットボール類と燃えるものに分けて入れよ」⑤熱中症などにかからないよう体調管理に気を付けよう」がありました。

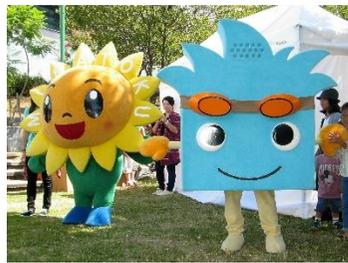
◆「工夫を込めた各コーナー

「このあと午後三時からまで、子ども会役員や青少年福祉委員らが心を込め、工夫を凝らして準備した「ターゲットボードゴルフ」「バールンアート」「コラバン」「スプーンキャッチ」「ス



→参加の子供たちを代表して「お礼の言葉」を読み上げる長谷川新くん⑤とく小池舟くん⑥

←開会を飾ったいきいきキッズのダンス④とマスキヤラ⑦（左はみなりん、右はおさぷー）



パーボールすくい」「ヨーヨーつり」「や・かりング」「スマートボール」「アーチェリー」「ストライクアウト」「割箸鉄砲」「イライラ棒」「輪投げ」「貼り絵」など十数カ所の遊びコーナーが広場を囲むように設置され、百円で買った参加チケットを首にぶら下げて次々と訪れる子供たちを、担当者が汗だく笑顔で迎えていました。

◆ 体験「コーナー」や飲食模擬店も

また前々回から新たなグループの協力を得て登場した「ネイチャーイベント（自然遊び）」「絵本ひろば」「絵画教室」「切り絵」「消しゴムハンコ」など数カ所の体験「コーナー」も、親子が待ちの行列を作る盛況を見せ、やはり子ども会役員

らが準備した「フランクフルト」「たこせん」「ジュース」「ミニパンケーキ」「チューペット」「ポテトフライ」「ラムネのつかみどり」「綿菓子」「アイスクリーム」「焼きそば」「くじ引きせり」など十数カ所の飲食模擬店（有料）も、訪れる子供が後を絶ちませんでした。

◆ 「健康的な遊び一杯」と二児の母

会場に参加者に訊きました。「このうち「イライラ棒」(少しでも触れたらブザーが鳴る細い迷路の間を金属棒で通り抜ける超難度ゲーム)を見事成功させて賞品をもらっていた川村星磨くん(三先小一年)の母親は「子供三人と初めて参加しましたが、百円で健康的な遊びがいっ



→慎重さと我慢強さが求められた「イライラ棒」⑧と「スプーンキャッチ」⑨

「ちょっとしたコツが成功・失敗を分けた」や・

「カーリング」⑤と「アーチェリー」⑩



ばいでき、色んな飲食が安い料金までできる、とても楽しい催しですね」と満足そうに話し、四人そろって次のコーナーへ走って行きました。

◆「こんなに楽しいのは…」と、兄の父

また、子供一人を連れて会場を回っていた岡隆史さん(四二)「港晴」は「情報誌で知って初めて参加しましたが、こんなに楽しいとは…」と驚いています。遊びも飲食も健康的で、安心できます」。長女の菜々子さん(港晴小五年)は「ライラ棒が面白かったです。成功して、とても嬉しいです」、次女の優里ちゃん(同年)は「ライラ棒に失敗しました。狭い所を通すのがとても難しかったです」と話していました。

◆「子供好きだから」と子ども会役員

一方、「フーンキャッチ」(長い筒を通して

勢いよく落ちてくる球をフーンで受けるゲーム)の世話役に汗を流していたのは山本博夫さん(六七)「八幡屋。子ども会役員として十八歳から四十年近く、退職後は年金暮らしでアルバイトをしながら活動を続けてきました。」「前日までの買い出しや当口早朝からの設営、終わった後の片づけなど、大変といえば大変ですが、子供の喜ぶ顔を見たら疲れも吹き飛びます。もっとも子供が好きで、子供を相手にするのはいいので、この年になっても健康を保っているのだと思います。それに、打ち上げで皆二杯やる楽しさ



→集中力と調整力が求められた「ストライクアウト」④と「ターゲットバードゴルフ」⑦

「素朴さ・単純さが幼児らの人気を呼んだ」

「マートボール」⑧と「輪投げ」⑨



も、長く続けられている秘訣です」と口焼きした顔をほころばせていました。

◇

直夏を思わせる日差しの下、広場に響く子供たちの歓声、大人たちの温かな眼差し。毎年のことながら、「競争社会の殺伐とした空気から子供たちをひとときでも守りつやる」という地域の愛情と熱が感じられる催しでした。

なお「運営費の不足を補うため」という目的で昨年から実施された参加費徴収については、参加者から特に異論は聞かれませんでした。今後、何より子供たちへの教育的観点に立って、議論・検討を続けることが期待されます。

人と動物の共生を！

「街ね」資金集めにフリマ



→「街ね」の活動を支援しようとして集まった人
たちでにぎわうフリーマーケット!!八月三十
日朝、八幡屋商店街で

「野良猫を増やさず、地域で共存できるよう

一緒に行動しよう」と呼びかける「街ね」活動が地道に重ねられています。八月二十日(日)には八幡屋商店街で朝から夕方まで、不妊・去勢手術などの費用を捻出するためのフリーマーケットを実施、活動への協力を訴えました。

●猫ポーターの成果と課題

「野良猫が増えて困る」「身勝手な餌やりが多い」「糞や食べ残しで街が汚れる」「こんな苦情に対応して大阪市は二〇一〇年、市民と行政が協力して地域の環境保全と動物愛護を図ろう」という「街ね」制度を、一年後にはそれを公園に適用した「公園猫ポーター制度」を創設。研修を受けた市民がサポーターになり、①公園の猫に手術をして増えないようにする②一代限りとなった猫への適切な餌やりで徐々に数を減らす③公園の環境美化に努める一などの活動を続けてきましたが、五年目に入った今、一定の達成と共に課題も見えています。その主なものが協力者の不足(港区では築港公園以外はサポーター不在)、そして手術費の自己負担(一件につき約五千円。市の補助件数にも限度)です。

●市市民の活動に公的支援を

そんな課題を市市民レベルで解消しようと取り組まれているのが、こつした啓発と資金作りの活動。制度発足の初年度から天保山公園の「公園ねこサポーター」として活動を続けてきた尾崎努子さん(池島)らが取り組んでいます。これまで築港などで実施、八幡屋では二回目、同商店街では初めての開催となりました。

この日は、開催場所の確保に地域の協力があつたのをはじめ、同商店街の果物店が陳列台を貸してくれ、向かいの百貨ショップが物品を提供してくれ、会場で猫の里親探しを呼びかける人が現われ、さらには通りがかりの女性が干田カンパしてくれるなど様々な反応があり、スタッフの女性は忙しさに嬉しい悲鳴を上げながらも「物品提供や場所の確保など、地域の方々の協力に心から感謝しています」と話していました。次回は十月十八日(日)十時から同所で、こつした活動が実を結ぶよう、市市民レベルの努力と共に、①地域理解の浸透へ広報を強める②手術費をプールする基金を創設する一などを公的支援の一層の充実が求められます。

宇宙がすごい！

「星空観察会」で子供ら歓声



→宇宙について映像や野外観察で学んだこどもサイエンスカフェ 星空観察会 〓九月十八日夜、港近隣センターで(写真は座学風景)

「星空観察会を通じて最新の宇宙の様子を学び、光害や地球温暖化についても考えよう」と九月十八日夜、港近隣センター(八幡屋)で子供向け講座「星空観察会 宇宙の不思議を体感しよう」が開かれ、親子連れら十数人が参加しました。身近な不思議について子供たちが専門家から楽しく学ぶ「こどもサイエンスカフェ」の一環。港区役所と大阪市環境局が主催、環境事業協会もだーじょ共同企業体が運営。十八時半から二時間、JAXA(宇宙航空研究開発機構)認定宇宙教育指導者・ゆまひなほのし松山淳司さんを講師に、座学と野外学習の二部構成で行なわれました。

★座学で太陽系や銀河を学ぶ
このつち座学ではパワーポイントによる映像を通して、次のような内容を学びました。

- ・天体望遠鏡の扱い方 〓後ろからのぞく型と横からのぞく型がある「手で触らない」な。
- ・星のソムリエとは何か 〓宇宙の楽しみ方を教えてくれる星の案内人である」な。

- ・星玉の見え方 〓今日は少し暗くなると、南に月、南西に土星、西につしかい座のアルクトゥルス、頭上にはこ座のベガなどが見え出す

す」夏の太三角形(ベガ・アルタイル・デネブ)は大阪では見えない「星座図の東西は地図と逆なので上」かえて観る」な。

- ・宇宙の様子 〓「人丁衛星から見た地球では日本は明るく南米は暗い」「太陽の黒点は温度が低い」「木星や土星はガス惑星で、今の二倍以上の体積が縮まった」「木星や土星には月(衛星)が六十〜七十もある」「木星の月エウロパの表面は水で、その下を氷が動いている」「土星の輪は真横から見ると見えなくなる」「冥王星の表面も水で、その下は海である」「小惑星には軽石のようにスカスカのものがある」「私たちの銀河は横から見たら凸レンズの断面のように見える」「宇宙の果てまで百二十八億光年とされているが、その三倍とする学者もいる」な。

- ・環境問題 〓「大阪ではネオンや排ガスや工場排煙などのため星が見えにくく、例えば午後十一時に見えること座の星の数は本来七個だが大阪では三個」「光害への関心は高まりつつあるが広く認知されていない」「環境省は地球温暖化防止のためライトダウンキャンペーンを実施してきた」「LEDの普及が期待される」な。

「」の中では「(銀河や銀河団の映像に)すごい」「なまじと驚きの声が上がったり、「流星を見つけた」「はは〜」(母親)→「寝転んで観る」と。大阪では十分間に一本くらい見えます」(講師などの質疑応答が交わされたりしました。

★野外でベガを観察

一方、屋外では同センターの庭に設置された天体望遠鏡(口径^{100mm}二十センチ・倍率四十と口径八センチ倍率四十五の二台。いずれも自動追跡装置付き)を使い、曇りがちの夜空を通して、うしかい座のアルファ星アルクトウルス(距離二十四光年)や、こて座のアルファ星ベガ(距離 十五光年)なまじを観察しました。

「」の中では「アルクトウルスの表面温度は約六千度でオレンジ色に見えます。もっと高温なると言くなります」などの説明がなされたり、「この望遠鏡は(男児)「高い、無理(母親などの会話が交わされたりしていました。

★「宇宙に感動」に参加者

終了後、波除から保護者として参加した山本沙織^{さおひ}とたは「こわいまでに子供たちがプラネタリウムを観に行ったり、夏休みの自由研究で星の

← 横山講師(写真上の右)らの指導で天体望遠鏡をのぞく子供たち(港近隣センターの庭で



ことを調べたりしていたので、もっと知りたいと思っただけに参加しました。最新の映像で宇宙の大きさや構造が手に取るように分かり、感動しました。木星や土星の月が多いのにもびっくりしました。木星や土星の月が多いのにもびっくりしました。その長男・悠聖^{ゆうせい}くん(波除小六年生)は「ハワーポイントの映像がともきれいで迫力があり、楽しかったです」「一男・慶次^{けいじ}くん(同四年)は「天体望遠鏡で赤い星が見えて嬉しかったです」「長女・陽菜^{ひな}ちゃん(同一年)は「これまで(こも)プラネタリウムでいっばい星を見たよ」となまじ話していました。

★健全な行事、予算増なし期待

なお十月十一日(日)には「こもサイエンス

カフェ」の区民まつりでの取り組みとして、八幡屋公園芝生広場^{はちやま}で「自然観察体験 公園でいろんな虫を探そう！」が高槻市立自然博物館の中谷憲一^{なかやのりひと}研究員を講師に行なわれ、子供たちが秋の虫の不思議な世界を観察しました。

限られた区予算の中で「地域の強みを生かした教育力向上事業」として取り組まれていく「こどもサイエンスカフェ」(今年度予算五万七千円)。子供たちの生き生きとした目の輝きや家族の触れ合いをもたらす健全な行事として、さらなる参加者の広がりや内容の充実、予算増を含む取り組みの強化が期待されます。

とにかく得電ねん!

LED照明に
換えてみませんか!

コスト減 + 環境貢献
(電気代カット・驚異の長寿命) (CO2を削減・有害物質ゼロ)

- 割れない、熱くない、すぐ点くなどのメリットも
- 店舗、工場、オフィス、家庭、屋外、公共施設に
- 場所や用途に応じてタイプ色々、取り替えも簡単

中小企業で世界初の全社屋LED化<見学歓迎>

前田機械(株) LED事業部
(LED照明・企画販売)

市岡元町2-3-28 ☎6582-5010
http://www.maedamachine.com

あれこれガイド

● 健康まつり 十月二十五日(日)十時十五時

に磯路中央公園で。区民の健康つくりと住みよい街つくりを目的に毎年開催され十九回目。今年はこのなげよう 健康と平和の「わ」がテーマ。健康チェック(血圧・体脂肪測定など)や舞台発表(体操・踊り・演奏など)、バザーや屋外子供コーナーも。参加協力券(三百円)で大抽選会。主催は大阪きつがわ医療福祉生活協同組合。問い合わせは港・西エリア健康まつり実行委員会(磯路二・三・四、☎六五七二〇六〇八へ。



→ 昨年の健康まつり(血圧測定コーナー) ①と ②
→ 昨年のあゆみ福祉まつり(バザー会場) ③

● あゆみ福祉まつり 十一月三日(火祝)十時十五時、あゆみ作業所(築港二・一〇・一八、天保山公園南向かい)で。内容は利用者らのステージ発表・模擬店・喫茶コーナー・自主製器販売・バザーなど。雨天でも施設内を中心に開催。回所は主に知的障害者が通所する定員二十人の指定生活介護事業所。NPO法人大阪港あゆみ福祉会が運営。障害者の自立や社会参加を支援。TEL:FAX六五七二〇七一四。

● 港区歯科フォーラム 「お口の中はふしぎがいろいろ」をテーマとして国立モントギル医科大学・岡崎好秀委員教授(元岡山大学小児歯科講師)が講演。目からウロコのお得な知識を伝授。十一月一日(日)十時十五時に弁天町ORC200生涯学習センターで。入場無料。申込不要。定員百名。大阪市生涯歯科保健推進事業。主催は大阪市。問合せは港区歯科医師会担当(むらがみ歯科クリニック、☎六五七二一四八八へ。

● 天満宮 御鎮座百八拾年奉祝祭 三先

の天満宮が氏神に感謝を捧げつつ、氏子と共に様々な行事で創建百八十年の節目を祝う。①奉祝祭(一般参列可)は十月二十四日(土)と二十五

← 前回の奉祝祭(百七十年奉祝祭)から、稚児行列①とフリーマーケット②



日(日)の十五時と十八時に本殿で②稚児行列は二十四日十時～十一時半に御旅所池島→はまおか酒店前→三先小学校前→カタギリ武道員店前→みなと通→天満宮のコースで③フリーマーケットは同日十時～十七時に境内で④餅つきと餅振る舞い(無料)は二十四日十時～十七時に境内で⑤昔遊び(無料)は二十五日十時～十七時に境内で。天満宮は三先一・五・四〇(港南中学校北隣、☎六五七二一〇五七)。

● ワークみなど「東北食品市」 東日本震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製

法で作った体ご心によさしい豆腐・豆乳・青豆あおまめ豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から（売り切れ次第終了）▽ワークみなどは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕田一・六・三、☎六五七一一・七五二二）。

● **繁栄ワイワイ市場** 商店街に個性的な露店

がズバリ。各地で活動する様々な分野の業者が一堂に会することで業者同士の交流と商店街・地域の活性化をめざす。ネイルアート、唐揚げ、窯焼きピッツァ、沖縄物産、手作り小物、バルーンアート体験、保険案内、似顔絵、タロット占い等々。日替わり特典あり（十一月は手帳づくり）



↑過去のワイワイ市場。野菜市と似顔絵④

プレゼント、十二月はプレゼント交換。毎月第一土曜の十時十八時、繁栄商店街(南市岡三丁目)。☎六五八三三・〇三三 六六繁栄商店街。

● **港のこころ** 「つながるこころ平和のために」

守ろうこころ子どもの未来をこころをこころ葉に港・大正西区の幼・小・中教職員や地域の人々が交流する毎秋恒例イベント。四十八回目。メイン舞台では「劇と歌で綴る戦争の本当の姿」と題して、一九八〇年結成のミックスサウンドとみやま&つだ」がナターシャセブンやフォークス

● **私の子どもたちへ** 『海に向かつて』『特攻花』

『私の子どもたちへ』などを歌い、「憲法九条の会 西区」から誕生した劇団「きゆう」が反戦劇『集団的自衛権と後方支援の巻』『戦争絶滅受け

合おのい法案の巻』を上演する。各職場 地域団体によるバザーも。入場無料。十月 十三日(金)午後八時〜八時半に港区民センターで(主舞台は六時五十分)。主催・連絡先は大阪市立校園教職員組合の港支部や地域諸団体から成る「港のこころ実行委員会」(☎六五八三三・〇三三 六六繁栄商店街)。

● **石綿(アスベスト)パンフ** 肺がん、中皮腫ちゅうひしゅなど

の病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、

↑港区役所三階でもらえる石綿(アスベスト)パンフ

それらによる死」が「アスベスト(石綿)によるものだ」と認められたら、色々な給付を受けることができる。このパンフレットは、そんな人たちが家族のために、①石綿による病気にはどんなものがあるか②石綿による病気が分かった場合の補償や救済の制度にはどんなものがあるか③その場合どこへ問い合わせたらよいかなどを厚生労働省と環境省と独立行政法人環境再生保全機構(ERCA)がまとめたもの。タイトルは『その病気、その症状は石綿(アスベスト)が原因かもしれません』。港区で暮らすか働いている人なら港区役所(市岡一・一五・一五)三階の港区保健福祉センターのチラシス

タンクに設置してあるものを無料でもらえます。

● 手打ち首・腰 無料相談会 交通事故で

手打ちになった被害者を対象とした無料相談

会。十月十五日(日) 十時十八時に行政書士

のむら事務所(築港三・七・一・六〇〇)で。

一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで。

「どうしたら正当な補償が得られるかをアドバ

イスします」事故後、早めの相談が良い結果に

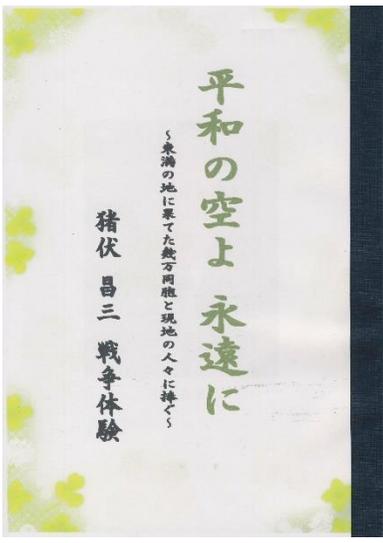
つながります」(同事務所・野村光恵さん)。E

メール info@jikkou110-nomura

ra.com TEL:六五七六・六〇七ハ

AX 六五七六・六〇七九。

● 戦争体験記『平和の空よ 永遠に』 東満州・



→ 戦争体験記『平和の空よ 永遠に』

↑ 著者・猪伏昌三さんの少年時代(上)と近影(下)



延吉で終戦を迎えた十八歳の少年が日本に帰

り着くまでの波乱と苦難に満ちた体験を綴った

感動の書。戦後七十年に鑑み、次世代に戦争

の悲惨さと平和の尊さを語り継がんと、本紙一

〇三年五月〜〇一四年一月に連載の「平和

のため戦争体験語り継ぐ」に加筆し、資料を添

えて入魂の冊子化。希望者には二百円送料稅

込で頒布。詳細は筆者・猪伏昌三さん(TEL:53

1・0074 大阪市北区本庄東一・四・一・二

二三 TEL: FAX:〇六・七五〇八・一一一七

Eメール mk5@w2.dion.ne.jp)

。著者はもって港区田中の住民。

● 障害年金もれの心当たりある人は相談を

障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害

次世代に戦争体験を伝えよう!

お話をききとり、冊子にしてお渡します。

理不尽な制裁に自殺も考えた初年兵時代。敵兵処刑や毒ガス使用に疑問も感じなかった戦場の日々。人が人でなくなる戦争の恐ろしさを子や孫に残しておきたいと書きためた文章を整理・加筆して頂き、立派な冊子にすることが出来ました。感謝しています。(90代男性)

400字(原稿用紙1枚)で千円が標準料金です。

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

人が相当数(身体障害者では〇・四割)二万人程度に上ることが厚生労働省の調査で判った(一三年七月)。原因の大半は「障害者手帳」に記載されている等級「一」障害年金の受給要件となる等級「二」があること。このため、例えば、実際には二級の障害厚生年金を受けられる程度の身体障害があってもかわりなく、身体障害者手帳の等級が「四級」であるため「自分は受けられない」と思い込んでいる場合などは、申請しなければいけません。たとえ支給されなくてもいい。

心当たりのある人は市国民年金事務所(磯路三二一五・一七、☎六五七二・五〇三)まで。

みなとサロン

安保と子供と水書い…

池島・勝部 泰臣 八十一歳

今度の安保法案強行採決で、今まで無党派層と
言われていた有権者は一体どう思っただろう
か。政権党が「民意」を支持を受けたのだからと
鼻高々でいーんだらうか。自民は今有権者の十
八分の支持票しかないんだ。野党は全土一〇分
以下。「民主主義はこの国では育たないのでは
」と常々思っていた。選挙のたびに、国政・地方
を問わず、投票率の低さをよ。すべて外国に発信
をさせていたら、呆れかねないわい。

子供の深夜徘徊たごひまわも注意された件数、年間四十
二万。親のいなごも少しは入っているだろうが、
保身は何かのせいなんだらうか。「ママ木持てるが
お好み」とうい類はさぬわい。

水書いでも、あれだけ雨が降ったら「サバイズ」
くひごんかたはけいおんしなまのだから、ちよひの被
書いぞん。

昭和一ケタ生まれの私には、今の社会全体が
官に頼り過ぎじゃないかと思えてならない。自
分で判断し、想像し、行動する。権利ばかり主
張しないで義務も果たす。そういう精神がだん
だん薄くなっているのではないか。これがゆ
の教育とせいの弊害だとすれば、嘆かわしいこ
とだ。

区画整理記念事業を本来の姿に

田園元町・七十年代 元公務員

「事業の趣旨踏まえた検討を！ 区画整理
記念事業『フーキング』始まる」と題した九月
号のトピック記事を読んだ。一区民として、特
に次の三点を感じました。

一は、事業内容について活発な議論が行な
われて良かったこと。区民の一部は、い
え、公募に応じた多方面の「干渉人」がそれぞ
れの立場からそれぞれの思ひや意見を自由に述
べ、それらを区役所が記録・整理し、事業内容への
豊富な材料にされたのは、民主主義社会では当
然のことながら、意義のあることと思えました。
一は、残念ながらこの議論内容は、い

けないものがあつたこと。貴紙が主張さ
れているように、この記念事業は、戦後の港区
民が総力を挙げた区画整理の歴史を次世代へ継
承し、誇りを持って今後の街づくりを進めるた
めの拠り所たよりとなるべきものです。「もかかわ
らず、その趣旨が励みとされ、くわい」の事業
の副産物的な内容（世代間交流や文化イベント
開催や収益性）に議論が集中していったように思
えるからです。議論の中心はあくまで「この施
設によって区画整理の歴史がいかに関民に伝わ
るか」そのためだけのスペースにこんな内
容を盛り込むか」であり、その上で「交流」や
「文化イベント」についても話し合われること
が本来の姿ではないでしょうか。

三は、議論の方法にもいたただけないものが
あつたこと。ブルース分けての論
議は良いとしても、その進行役（まとめ役）をわ
かぬ「リスト」をにかけて民間企業に任せられたのは、
かなまものせい。貴紙も主張をわかれ
う、いや、やはり港区のことを熟知し、この記念事
業の趣旨について一番の理解者として、区役
所職員さんが拍子抜けはないかなかつたこと。うか。

また、それに区役所が直撃に感ぜられているのも派遣だと思ってみよう。

でもそれは、行政との交渉は敵対的な書面式になりがちですが、ほげ下り節度を保ち、しかも「いぶき」よりはきこちりと言いつつ、そんな交渉風景に好感が持てた記事でした。

胸に響いた小川さん「戦争体験」

（八幡屋・四十一代一原の母）

小川宏さんの「平和のため戦争体験語り継ぐ」の最終回（九頁～四十頁）を読んだ。疎開先の兵庫県三田市のマンの空襲を受けた時の恐怖の体験のあと、戦争が終わって「これで明日から竹藪へ行かなくていい」と胸をなで下ろしたことを正直に語っておられるのが微笑ましい。また心に残りました。「一番胸に響いたのは、

やはり人生を振り返り返って語られた「兵隊同士がドンパン撃ちあつたの殺つたの殺すだけだが戦争ではない、その後しばらくは銃後の、女性や老人や子供らが、これだけ困難や苦勞や犠牲を強いられたかさを承へるべきではない」といふ言葉です。先口、安倍法が国を通過してしま

↑辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙



ましたが、安倍さんたちはこの言葉をかみしめてはいるのかなと思ってみよう。

楽しく読んだ「下水道」記事

（此花区・七十一代 自田）

ネット記事です。九月の女「楽しく字をた

下水道 市岡処理場で『夏休み子供教室』（一十八頁）を楽しく読ませてもらいました。下水道について子供たちが「い」高度な内容を楽しみながら学んだ様子が伝わってきました。先生役の職員さんも漫画Tシャツを着て教えるなど、とても工夫されていたのが分かります。此花区にも西島に下水処理場がありますが、普段は目立たない縁の下（えぐ）の力持の施設なので、港区に学んで同じような確しをされたら、きこと市民に親しんでもらえると思ってみました。

こんな重要な施設まで維持管理が民間に委託されるのは、橋下さんは何を考へてこのようにしたのか。そのうち施設としての施設はみな民間へ売却されたらいいのではと思っております。

原爆の悲惨さに迫った朗読劇

（住吉区・五十代 労働者）

ネット記事でございます。文芸関係の記事に興味があり、九月の女「核も戦争もない未来を！朗読劇『被爆の証言』」と響（三十八頁）「目目が開かれました。被爆体験の朗読を中心して、

映像や小芝居や音楽劇も組み入れた立体的な演出で原爆の悲惨さに迫った舞台の空気が紙面から伝わってきました。今、日本や世界には映画や演劇や文字が無数に溢れています。そのうち二体だけだが世の中の役に立ってほしい。港区の小さな劇団が、毎月のように社会的なメッセージを込めた演劇を地道に続けられていこうという感銘を受けています。

プロレス本来の姿を見た

(市岡・四十年代 会社員)

九月三日では「みっちゃんの歴史ガイド」がお休みで、ちよつこがっかりしましたが、「みなとプロレス活況 女性レスラー引退に声援」二十八頁)がなかなか面白かったです。プロレスといつのは力のパフォーマンスを見せる、単なる見世物という印象でしたが、「青少年に正義感や勇気を」「困難に負けない生き方を」などをアピールする健全な(道德的な)面もあることを知り、少し見方が変わりました。引退された女性レスラーHARU。さんは、介護士としても働きたながら、小さな体で大きな男性レスラーに

立ち向かう姿で障害者や高齢者を励まし続け、五十歳までリングに上がられたことで、本当に頭が下がります。採算の厳しさをいわず興行を続けているという、主催者のミッキー(麻野)さんの熱意も素晴らしいと思いました。商業的ではない、プロレス本来の姿(と私は思いました)を示す催しが港区で毎年開かれていることを誇りに思えた記事でした。

「健康麻雀」の楽しさを感じた

(海晴・六十年代 商店主)

風情屋で読んでいます。九月三日では「健康的な駆け引き みなと麻雀大会、岡野さん優勝」三十四頁)が面白かったです。私も麻雀は少々やりますが、この大会では「賭けない・飲まない・吸わない」をモットーにされているというので、選手宣誓があるなど、健康的な雰囲気(が伝わってきました)。競技前のルール説明も的確で、感心しました。今では大阪市や港区だけがこの大会を続けているようですが、景気が悪く、明のい出来事が少ない中、健康で楽しんで催しとして、愛好者を増やしながら、ぜひ

いつまでも続けてほしいと思いました。

自ら善八を掘る安倍集団

(港の加勢大周)

安倍集団はますますまじい反対の民意を無視し、戦争法をでっちあげた。これによって日本がアメリカ主導の戦争に巻き込まれ、太平洋戦争時のように壊滅的な被害をうけるのではないかと心配する人も少なくないと思うが、事はそう単純ではない。

まず第一に、民意を無視した自公集団は来年の参院選で大敗する可能性があり、それによりこの法律は修正されるかもしれない。また仮に米国の戦争に加担し、万一少しでも死傷者、何らかの被害が出るようなことがあれば、その責任を自公は「つひどく追及されるだけではない」。戦争法は廃止に追い込まれ、果ては失脚する運命が待っているはずだ。ムンソウ(二)のようにならぬことを、日米安保条約、PKO法、辺境憲法なども立て続けに廃止され、日本から米軍基地が全て叩き出される可能性すらある。大衆の根強い反戦意識をなめはばいけなご。

百二十選手が快汗

区下連主催 港区バドミントン大会



→百二十選手がシャトルを追って快い汗を流した港区バドミントン連盟主催「港区バドミントン大会」は九月六日、港スポーツセンター

地域バドミントンの普及に力を尽くす港区バドミントン連盟（室津秀一会長、井上英孝名誉会長、岡野三津茂理事長）が主催する「港区バドミントン大会」が九月六日（日）、港スポーツセンター（田中三丁目）で開催され、区内各地域のバドミントン愛好者、約百二十人が終日シャトルを追って心地よい汗を流しました。四十七回目。B・W・A・Y（株）が協賛。

大会には各七、八人から成る十八チームが参加。自己申告による美力別の二部に分かれ、それぞれがまた「ゾーン」に分かれて各四チームの総当たりダブルス戦（二十点ゲームマッチ）を実施。その成績に基づいて、そのあと部としての順位決定戦を行いました。結果は次の通り。

（一）二位のカッコ内はメンバー名、敬称略。

● 1部は梅原チームが優勝

1部 ①梅原チーム（梅原真宏、山口涼太、島慎志、一井優一郎、西林敏子、西阪美香、鯉淵泰教）②岡野チーム（岡野三津茂、本間止樹、田中啓史、中島正和、合田絵里奈、小林かをり、金子恵子）③穴吹チーム（穴吹裕美、寺本岳吉、永優大、久永勝、谷充康、村田宣裕、岸田清

美）④吉田チーム⑤中川チーム⑥岸川チーム⑦万代チーム⑧森原チーム

● 2部は有村チームが優勝

2部 ①有村チーム（有村房子、横田晃一、平美保子、丸林秀美、稲生二博、山本綾子、岸川和美、藤井笑留）②山田チーム（山田敏弘、山田弘子、古賀尚子、丸山美智代、内藤正男、波戸弘美、谷崎豊子、村尾宗）③室津チーム（室津秀一、三木千佳子、西田千佐子、宮下文代、川村三行、水谷智美、波戸寛之、西平真田美）④田中チーム⑤藤井チーム⑥稲垣チーム⑦西谷チーム⑧勝原チーム

駐車場 月 18,900円

- ★24時間入出庫可
- ★屋内につき安心
- ★敷金なしでも可
- ★車庫証明発行可

ミドルーフ車

車庫高さ1.85m

カービレッツ216

港区磯路2丁目1-4
<営業>AM8時~PM8時
☎6577-8731

（丸葉・境川方面）
（朝潮橋方面）

中・高吹奏楽部が一堂に

ふれあい音楽会、区老連も参加



→生徒たちの心を込めた演奏の数々が感動を与えた「港区ふれあい音楽会」は九月六日午後、オーク広場で（写真は築港中の演奏風景）

爽やかに、華麗に、力強く。九月六日（日）にオーク広場（弁天二丁目）で開かれた「港区ふれあい音楽会」には区内の四中学校・二高校の吹奏楽部が日頃の練習の成果を披露、今回初めて港区老人クラブ連合会（区老連）の参加もあり、詰めかけた大勢の聴衆に深い感動を与えました。毎秋恒例の文化イベントで九回目。第九回港区ふれあい音楽会実行委員会と港区役所が主催、ORC200店舗会が協賛。

♪ 「区民主体の運営」は区長

音楽会は午後一時から市岡中放送部による司会で進行。開会式では上田哲夫実行委員長らが挨拶。このうち田端尚伸・港区長は「この音楽会には港区の高校と中学がこぞ出て出演し、年々盛大になっている。平成十八年にスタートして実際には十回目だが、平成二十三年は東日本大震災へのチャリティ・コンサートとして六月に開かれたので九回目となっている。八年前からは中学校の合同演奏がスタートし、昨夏は大阪市のたそがれコンサートで大阪市音楽団と合同演奏を果たし、今夏も同コンサートに参加した。特に今回は港区老人クラブ連合会も出演

して縦の交流がわり、楽しみが増えた。また司会を市岡中学校放送部が担つたなど、生徒自身による運営、区民主体の運営が行なわれていることにも注目してほしい。さらに今回、協賛のORC200店舗会のクーポン券をプログラムに添えたが、こうした試みが地域の活性化につながるべく期待する」とこの音楽会の歴史と意義を強調しました。

♪ 『花は咲く』は感動フィナーレ

このあと築港中の『築港たんらんらん』など三曲を皮切りに、市岡中は『ルパン三世のテーマ』など二曲を、市岡東中は『アバゲバ90分』など二曲を、港南中は『私以外私じゃないの』など二曲を演奏。四中合同で『風になりたい』など二曲が披露された後、平均年齢七十五歳という区老連女性部が中・高の伴奏を得て『玉将』など二曲をピアノ力合奏。続いて港高が『ルパン港バージョン』など二曲を、市岡高は『心の瞳』など二曲を披露。最後は市岡高の伴奏による『花は咲く』の大合唱。東日本大震災被災地に寄せる港区民の想いが会場一杯に広がる感動のフィナーレとなりました。

♪ 「心結ぶ音楽の力」と来場者

一時間半にわたる長丁場にもかかわらず、来場者は最後まで熱心に鑑賞、演奏終了時はもちろん、各パートの独奏や踊りにもそのこころ拍手を送っていました。我が子の演奏風景を記録にとめてようと熱心にカメラやビデオを構える保護者の姿も目立ちました。最後の大会唱では会場の一体感に感極まり、涙を抑えきれない高齢者らの姿が印象的でした。また司会を務めた市岡中放送部のプロ級のアナウンスには口頃の鍛錬の積み重ねが感じられました。

来場者のうち、これまでほとんど欠かさず参加してきたという六十代男性(田中)は「地域も年齢も生き方も違つた人たちの心を一つに結びつける音楽の力を改めて感じました。初出演の区老連の演奏を青少年がサポートする姿が温かく感じられると共に、指揮に集中する生徒の真剣な表情、独奏の後で頭を下げる姿などはいつもながら胸が熱くなりました。この純粹さを、厳しく競争社会に出てからも失うことがないように願っています」と話していました。

ライブガイド

●市岡元町在住の音楽ユニット「花☆キアラ」生活に根ざした前向きなオリジナルソングのCD『マルグリータとトマト・パスタ』『あなたらしくあたらしく』▽十月二十四日(土)十九時からあやや食堂(築港一・八・一七、地下鉄大阪港からみなと通商側を海へ三分) ☎六五七二・二〇七三(まで)満月まつり二〇一五・ちゃんぶるナイトの巻を主催。大阪港の名物ライブ「あややdenight」の五回目。出演は花☆キアラ&ダンディー・ボイズ、カミィ、UPUフジタ&ほごぼど他。九時半から自由舞台。チャージ五百円(一飲物付)▽HPは「花☆キアラ」で検索。



↑花☆キアラの演奏風景

演劇ガイド

●「いつまでかば」一座「駅前人情旅館」 波除のフリースペース石炭倉庫を拠点に庶民の温かさや可笑しき、時代への警鐘・風刺を込めた芝居を世に問い続ける。2014年11月21日(土)一座の第三十七回公演。同一座の座付き作家であった故・綾羽一紀さんによるお馴染みの「七軒長屋物語」シリーズから、ある大阪下町の駅前を舞台にした、てんやわんや、涙と笑いの人情ドラマ。あながいおまる座長が演出。音響・照明は八上和裕さん。出演はヨシシ・原本さん、くめくめ(ごん)さん、道野学さん、岡戸淳子さん、後藤基昭さん、銀牙さん、阿部桂子さん、梶谷栄治さん、山本恵さん他。十月二十四日(土)十四時、二十五日(日)十一時、同十四時の三回。前売八百円、当日千三百円。小学生以下はいずれも千五百円。問い合わせ・申し込みは会場の石炭倉庫(波除六・五・一八、JR弁天町駅から国道四三線を北へ直進、安治川堤防突き当たり右へ)。 ☎六五八一・〇六六四、FAX六五八一・二六七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二二〇・三三四二・三二九へ。〈読者プレゼントあり〉

芸人世界を温かく

あんがにおまる一座 難波作品を朗読で



→ 芸人世界の風景を通して夫婦の情や芸人の意地が描かれた難波作品の朗読劇。右は『夫婦同穴』、左は『髪頼み』。九月、石炭倉庫で

芸人世界の風景を通して夫婦の情や芸人の意地が温かく伝わってきました。大阪の芸人ものを描かせた右に出る者はいなく言われるのを賞作家・難波利三さんの作品の朗読劇が九月、波除のフリースペース石炭倉庫で上演され、好評を博しました。石炭倉庫を拠点に庶民の優しさを描く、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがにおまる一座のスタジオ公演。語りによる難波作品シリーズの第四弾。お笑い芸人譚の秀作『髪頼み』『夫婦同穴』のおかげでも温かな世界が、あんがにおまるさんの演出、ヨシシー原本さんとおんがにおまるさんの朗読、八上祐子さんの助演、八上和裕さんの音楽・照明で再現されました。

◆ 芸人の意地を描いた『髪頼み』

『髪頼み』は文芸誌『問題小説』平成十四年六月に掲載された芸人もの逸品。ヨシシー原本さんが朗読しました。

——三十過ぎの芸人・健は若衆げが悩み。かつて漫才コンビを組んでいた相方に去られてからはピン芸で繋いでいるものの精彩を欠いている。漫才時代にファンだった真奈美と結婚

して二年。カツラ会社の広告に釣られて説明を聴きに行き、真奈美はその着用効果を信じて美家に借金までした。夫の頑張りをお願いがゆえの妻の決断。優柔不断な健は半信半疑ながらも頭の型取りに応じる。丁寧な工程を経て一カ月後カツラは完成。強風が気になるもの、着用後初めて受けた仕事はバスマーの余興で、頭髪をネタにした話芸も受け、ますますの滑り出した。味をしめたプロダクション社長は、健のカツラを手がけたのとは別のカツラ企業の「使用前・使用后」CMへの出演を持ちかける。

秘してこたかなものを、事業を偽ってまで白日に曝し、芸人の誇りを貶めてまで利益を追う非情な商法。反発を覚えた健はさっぱりと断わる。クビを覚悟の決断だった。「これでええんや。真奈美も分かってくれるやろ」。プロダクションを後にする健を地下鉄の風が吹き上げる。乱れたカツラの髪をトイレで整えながら、健の気持ちはなぜか晴れやかだった——。

仕事を失っても筋を通す芸人の意地と、それを支える妻の愛情が、笑い沢山な展開の中から滲み出て、静かな感動が湧き上がりました。力

感める声質にメリハリをつけ、表情も豊かに人物を演じ分けのミッシェさんの朗読は、素晴らしい可笑しくも温かな情の音色をさびに増幅させた中盤に挟んだカクシ作りの寸劇は、笑いの中にも後半の展開への絶妙の拍子となりました。

◆ 夫婦漫才の哀歓を描いた『夫婦同穴』

『夫婦同穴』は同じく『問題小説』平成九年二月に掲載された夫婦漫才ものの絶品。あながいおまるさんが朗読しました。

——演芸評論家・若本は執筆のため滞在した温泉地で偶然、かつて一世を風靡した夫婦漫才の片割れ、紅ウララを目撃する。彼女は三年前に若いマネージャーと駆け落ちして夫・暁ノボルを元を去り、今ではそのマネージャーを相方にドサ回りの漫才を続けているのだ。が、相方の芸はいかにも未熟で、不釣り合いは歴然だった。密着に目撃した若本は彼女はその夜、若本を訪ね、ノボルとの復縁の仲介を依頼する。「もう一ぺん、大阪の道頓堀の舞台に立ちたいんです。大阪のお客さんを笑わせたいんです」。彼女の芸への熱とノボルへの愛は薄れていなかった。大阪へ戻った若本は、ウララ失踪

後も「逃げた女房をネタにした漫談でそれなりの人気を保っていたノボルを訪ね、彼女の気持ちを支え伝える。が、自分こそ浮気を重ねて彼女に辛い思いをさせたことは棚に上げ、フリードを盾に、ノボルは若本に絶交を言い渡す。ほどなくウララから通天閣に呼び出された若本はノボルの返答を伝えた。若い燕を故郷へ帰して区切りをつけた彼女だったが、復縁は諦めたように見えた。が、その夜、複雑な気持ちで道頓堀を歩く若本の目に思いがけない看板が飛び込んだ。「暁ノボル・紅ウララ臨時出演」。急ぎ入った演芸場の片隅から観たのは紛れもない往年の夫婦コンビだった。彼女は他人任せを恥じて自らノボルを訪ね、その飽くなき芸への熱と元夫への愛をぶつけたに違いなかった。客席には全盛期にも勝る笑いが響き続けた——。

ひとつは味わった舞台での至福の時間、ひとつは結びついた男への恋慕と懐かし。その栄光と愛を取り戻さうとする女性芸人の哀しいままでいらいらい執念が、特に土壇場の急展開で浮かび上がり、得も言われぬ感動が涙を誘いました。滑らかな声質と明瞭な滑舌を駆使し、女

性の愛らしさと艶やかさ、男性の冷静さと自勝手さを見事に語り分けたおまるさんの朗読は、素晴らしい瀧なくも温かな情念の世界を一層色鮮やかに塗り上げました。また後半の通天閣上でのウララとファンとの交流の寸劇は、ノボルの復縁拒否で緊迫した展開を大阪らしい笑いで和らげ、『モリスワフ郊外のクベ』をディキシー風に調整した主題音楽は、切なさとほの明るさを維持しつつ、物語をさらに滑・軽快に運ぶ役割を果たしていました。

◆ 際立つ原作の質の高さ

全体を通して、何より原作の質の高さ(筋書きの面白さ、展開の巧みさ、文章の味わい深さなど)が際立ち、数ある難波作品からそうした秀作を掘り起こした同劇団の着眼力の高さが窺えました。また、朗読を担った役者の技量(発声、抑揚、間、人物の演じ分けなど)にはNHKラジオ「日曜名作座」の西田敏行・竹下景子を彷彿させる水準が認められると共に、朗読者の姿を取って観る「よじろ」って、ただ聴くことばかりで味違う想像世界を提供するものではない、この試みの意欲的な狙いも感じ取れました。

盲導犬を贈ろう！

藤かほりさんチャリティ第二十回



→盛り上がった寄附金贈呈式。(右から)テリシ
ア号、山本さん、日本ライトハウス橋本専務
理事、藤かほりさん、司会の藤田明美さん

「目の不自由な人に盲導犬を贈りましょう」と
と波除在住の演歌歌手・藤かほりさんが九月二
十七日午後、港区民センターで「チャリティシ
ョー」を開きました。藤さんが視覚障害者との
交流をきっかけに平成七年から毎夏、秋に催し
てきた恒例イベントで、二十回目（昨年は事故
で中止。爽やかな秋の空気の中を区内外から訪
れた大勢のファンがホールを埋め、藤さんの
志に熱い声援を送りました。

★会場酔わせたかほり節

藤さんは冒頭、鮮やかな卓変わりで『かほり
のお目通り』と『男の花道』を披露したのを皮
切りに、「一心流鎖鎌術の創始者を讃えた『男
の夢十二代』（藤さん作詞、特攻青年を題材に
平和への願いを込めた『知覧の母・ホタル』、明
治男の武骨な人生を追想した『無法松の一生』、
夫婦長寿を祝った『かほりの祝い太鼓』、河内男の
生き様を讃えた『河内おどり節』、ひばりものか
ら『関東春雨傘』、さらには『大利根月夜』など
の股旅メドレーや『風雪流れ旅』などの演歌メ
ドレーを熱唱。情も艶も迫力もある、かほり
節で会場を酔わせました。また東日本大震災

被災地応援歌『花は咲く』に乗せた華麗な舞や
祇園太鼓の乱れ打ち、さらには「手前 生国と
発します所、大阪 港区です。弁天埠頭で産湯を
使い、姓は藤、名はかほり。人呼んでミス弁天
町と発します」と名乗る仁義も披露し、喝采を
浴びました。会場には「頑張れ〜」「応援して
よ〜」などの声援が飛び交いました。

★日本ライトハウスに寄付金

ショーの中盤には藤さんから、視覚障害者の
ための総合福祉施設「日本ライトハウス」の橋
本照夫理事へショーの収益から寄付金が贈呈。
同施設で養成されたメス盲導犬テリシアと飼



→『男の夢十二代』『知覧の母・ホタル』『無法松
の一生』『かほりの祝い太鼓』など、情も艶も
迫力もあるかほり節で酔わせた藤かほりさん

い主の山本さんも舞台上がり、大きな拍手を受けました。

同理事は感謝の挨拶の中で、「平成七年からこのチャリティで支援を受けて二十年以上。人間なら独り立ちできる年数だが、盲導大事業は独り立ちできない。皆さんの支援あってこそ続けられる。毎年二十数頭を千早赤阪村で養成し、昨年は二十頭を贈ることができた。同様の施設は全国に十一あるが、西日本では一番の実績がある」と報告し「行きたい時に行きたい所へ行くといい」当たり前のことを見習障害者ができるといふ、これからも一頭でも多く養成していきたい



→杉俊一さん④は高音域の美声で『都城の女』などを、川村正幸さん⑤は男性的な歌唱で『男オホーツク』などを熱唱し、藤さんを支援

い」と区民の一層の支援に期待を寄せました。

藤さんが朝から会場を準備して下さった方。体調不良や身内の不幸や台風の時でも駆け付けて下さった方。千葉や横浜など遠方から参加して下さいました。そんな皆様一人一人に支えられて二十回を迎えられた。死ぬまで続けていきたい。これからも「いっく」と呼びかける。会場から割れるあつな拍手が起こりました。

★ 杉俊一さん、川村正幸さん熱唱

藤さんの舞台の合間には藤さんの志に共鳴した多彩なゲスト出演者が「少しでもお役に立てれば」と熱演を繰り上げました。

このうち五度目の出演で、高知県出身・八幡屋在住の演歌歌手・杉俊一さん(キングレコード)は「杉さん」の言葉を浴びて登場、定評ある高音域の美声で、名曲『都城の女』や『裏通り』『元禄男華』などを熱唱。同じく五度目の出演で、藤さんと同じ安藤実親門下の川村正幸さんは北海道知床の現役漁師らしい豪快な歌いこぶりで、「ラブユー曲」「男オホーツク」や『友よ…あしがいつ』などを披露しました。

★ 天井よそみさんや杖道ひび目

→プロ級の歌唱や太鼓ソロで盛り立てた港区の天童よしみこと天井よそみさん⑥と鎖鎌演武で杖道をアピールした小山六段と広瀬五段⑦



ゲストで大きな注目を集めたのは磯路在住のアマチュア歌手・天井よそみ(本名:藤田紀江)さん。天童よしみのそっくりさんとしてテレビ番組で引っ張りだこの人気者。豊かな音量を生かした伸びと張りのあるプロ級の歌唱で本家のヒット曲『珍鳥物語』や東北への想いを込めた『浜唄』を痛快に歌い上げると共に、洗練とした太鼓ソロで藤さんの歌唱を盛り立てました。また藤さんが代表を務める「神道夢想流杖道并天道場」(市岡元町)の小山悟六段と広瀬和子五段は、藤さんの歌のバックで見事な鎖鎌の演武を披露し、藤さんの活動のいま一つの柱

である杖道の普及にひと役買いました。

★ 双子マジックや福丸さん小話で

「このほか、「卵性双子姉妹手品師」ロットン・キャンディは、トランプやリングを使った楽しい奇術の締め括りに、箱の外から妹に剣でめった刺された姉がみごと無傷で脱出する超危険・超不思議なイリュージョン(幻想的)マジックで観客を翻弄。ハプニングで出演が叶わなかった中心ゲストの元夫婦漫才師・正司敏江さんに代わって急ぎよ登場した市岡在住の若手落語家・桂福丸さんは、愉快な小話(今日のお客さんと掛けて遠慮なく説く。その心は、先が見え



→ 超危険・超不思議なマジックで観客の度肝を抜いたロットン・キャンディ(上)と、愉快な連続小話で場内の大爆笑を誘った桂福丸さん(下)

ての「なご」や超!!!民謡(船の民謡)あゝヨット、韓国の民謡)あゝ「リーヤン」ハタクシーの民謡「ハ・イヤ」など)で場内を爆笑の渦に。守口のFMパーソナリティ・藤田明美さんは、心配り籠る爽やかな司会でショー全般を快適に運び、参加者自らも終盤、河内音頭に列を成してフィナーレを華やかに飾り上げました。

★ 「人間的に素晴らしい」に参加者

会場の最前列で盛んに拍手を送っていた竹本きぬみさん(六八)＝大正区在住＝は終演後、「いつも一緒に来る主人が仕事で来れなかったので、ファン十人で連れ立って来ました。藤さんの舞台はとても温かく、いつも元気で迫力があって感動します。二十年以上もチャリティを続けるのは大変なこと。人間的にも素晴らしい方だと思います」と話していました。

また昨年、藤さんが、「このチャリティ中止の原因となった自転車事故による左大腿骨骨折で大阪みなと中央病院(築港)に入院した際、病室が隣だった福永一男さん(八二)＝築港在住＝は「藤さんと同じ時期に同じ左大腿骨骨折で同じ位の期間(約一カ月)入院していたのですが、

「東日本大震災被災地復興への願いを込めて『花は咲く』を華麗に舞う藤かほりさん(上)と、客席で来場者と交歓する藤かほりさん(下)」



病院ではとても親切にして頂きました。そのずっと前から道頓堀の演芸やこのチャリティにも来ていました。普段でもしよっちゅう珈琲や飲食に声をかけて頂いています。これからもずっと応援したいです」と話していました。

港区に二十年以上根づくロングラン・チャリティ。「世のため人のため」の想いが舞台にも客席にも溢れると共に、初回からほとんども変わらぬプログラム・パターンが高齢者を主とする来場者の安心ともなっており、得も言われぬ温もりが漂います。そして、その繰り返しの中から、今年もまた新たな感動のドラマが生まれました。

独特の透明感と色彩美

金元さんら「ガラスアート二人展」



→ 独特の透明感と幻想的な色彩美が好評だった
「金元奈保美 & 飛垣美香 ガラスアート二人展」
九月十九〜二十一日、中央区心斎橋で

自然光や照明の角度で微妙に変化する幻想的な色彩美が人気の芸術「ガラスアート」。その教室主宰者集めた『ガラスアート ナカイグループ 金元奈保美 & 飛垣美香 ガラスアート二人展』が九月十九〜二十一日に中央区の心斎橋SMBCCコンシューマーファイナンス株式会社お客様サービスラウンジで開催されました。

創業者の中井芳夫・アツコ夫妻の「地域に密着した文化を」との思いを受けて活動する京阪神の各教室のうち、港区でガラスアートNAOMを開く金元さんと神戸で教室を開く飛垣さんが、この間に作りためた数十点を展示しました。

ガラスアートのルーツは江戸時代、京都の絵師・宮崎友禅齋みやざきゆうぜんさいによって開発された京都手描き友禅。その彩色師をしていた中井夫妻が八八年、この伝統技法を応用して一枚のガラスに描く技法と画材を開発、「ガラスアート」と名付けました。「絵を描いたことのない人でも気軽に楽しめるように」と、色は二原色と白・黒・銀の計八色、筆の代わりに竹串一本、パレットはプラスチックカップ一個。「ガラスの上で色あそび」といった感覚の簡便な技法が注目を集めています。

← 展覧作品から金元作「ガラスアート 北斗七星？」と飛垣作「ガラスアート 未来は…」



会場にはカップルや中学生グループなどが来場し、旅の思い出や花や風景などをモチーフにした一人の遊び心溢れる表現に感嘆。「ほのぼのして楽しめた」「竹串で彩色するのがニクク」「やってみたい」などの声が聞かれました。

また今展ではガラス張りの入口から陽光が入り、天井が高く、壁が白いつつ会場の開放性が生きて、時間と共に絵の表情が変わるというガラスアート特有の現象がより顕著に見られ、二人にとってもその奥深さがより感じられる催しとなりました。金元さんとその元生徒であった飛垣さん。「これからもガラスアートを通じて地域文化の発展に努めたい」と話していました。
ガラスアートNAOM 磯路二二〇・一九・一〇〇四 ☎六五七六・一三四四 金元

爽やかに個性溶け合う

三先で 平和美術展の仲間が合同展



→ラ・カル展で語り合う(右から)坪井功次、坪井藍子、川島恵美子、山内比呂子、伊藤美恵子の各氏。九月二十七日、ガレリア・リバーリアで

平和の願いをキャンバスに込めて絵画人生を送ってきた川島恵美子さん(八四)は八幡屋の「平和美術展」を通じた絵の仲間四人による合同作品展「ラ・カル展」が九月十九〜二十七日に三先の画廊&アトリエガレリア・リバーリアで開催されました。

平和美術展は「日本が再び戦争の道を歩み、美術家が創作の自由を奪われることがないよう」と願って毎年東京で開催されていますが、そうした共通の創作姿勢で一人一人が独自に活動する一方、グループ展も不定期に続けてきたという四人。会場にはそれぞれの個性が溶け合った爽やかな空気が流れていました。

◆「風」を共通テーマに

このうち唯一の男性である坪井功次さん(六六)は鉄工所経営の傍ら創作を続け、絵画を主体に、仕事で使う金属などで造形も手掛けてきました。今回は「風」を共通テーマにした油彩の大作やステンレス素材の造形作品を出展。「見る人がそれぞれに感じてもらえたら」と話していましたが、風に舞い散る紙や人のシルエットを濃く紅色に埋もれるように描いた『暮色幻影』

「現代社会の危うい風向きへの危機感などが感じられた坪井功次さんの『暮色幻影』」

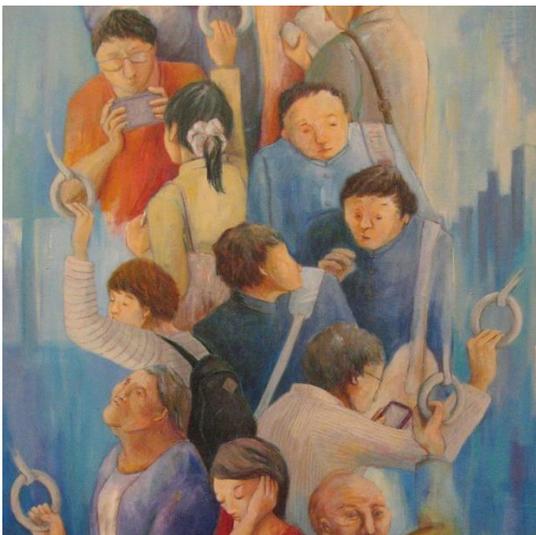


などの作品からは、現代社会の危うい風向きへの心配や、それを吹き飛ばす爽やかな風が吹いてほしいとの願いなどが伝わってきました。

◆ 現代人の心理状態を表現

その娘である藍子さん(三三)は「小さい頃から父の背中を見て「目」も創作活動へ。今回は交差点や通勤電車内などの社会を象徴する風景を描いた油絵やパステル画を出展。またまだ(作風や方向性は)模索中」とのことでしたが、

←現代人の置かれた空虚な心理状態などが伝わってきた坪井藍子さんの『吊革』(部分)



←洗濯物などを配して旅先の生活感を表現した山内比呂子さんの『気まぐれな地図』(部分)



←植物の生命力や爽やかさが感じられた伊藤美恵子さんの『旅立ちの季節』(部分)



車内でスマホや新聞に向かう互いに無関心な人々を描いた『吊革』などの作品からは、知らず知らず同じ方向やばらばらな関係へ流されていくなか、空虚さや、そんな状況から抜け出そうと願いつつも方向を見出せない焦りなど、現代人の置かれた心理状態が伝わってきました。

◆ 旅先の印象を温かく

旅行好きという山内比呂子さん(七二)は旅先の印象を表現した大小の抽象画などを出展。

の町へ行っても表通りよりは裏通りを散策し、あえて写真撮影などせず、その土地の生活感などを表現するよう努めています」とその創作姿勢を自ら語るように、赤を基調に洗濯物などを配した『気まぐれな地図』などの作品からは、何でもない生活風景の中に作者が感じ取った、その土地の温かな空気が伝わってきました。

◆ 植物の生命力を表現

やはり旅が好きという伊藤美恵子さん(八七)

は季節の草花などを題材にした風景画や抽象画などを出展。「それぞれが与えられた場所で文句も言わず生き抜いている植物って本当に偉い」と思います。そんな生命力のようなものを観る人に感じてもらえたら」と特に植物への思い入れを強調していましたが、タンポポの群生を温かくも爽やかな色彩とタッチで描いた『旅立ちの季節』などの作品からは、そんな草花の持つたくましさや健気さが伝わってきました。

み(つ)ち(ゃ)ん(の)

港区なるほど歴史ガイド

●築港大棧橋ものがたり



→西村捨三氏の尽力で明治三十六年完成 大阪の繁栄を築いた築港大棧橋(写真は昭和初期)

ロシアの黒船騒ぎを乗り越え、明治の夜明けを迎えた大阪。だが問題は、大きな港がないため本格的な貿易ができないことでした。そこで「築港事業にやる気も実力もある仕事人はおらんか」とさんざん探し求めた拳げ句に白羽の矢を立てられたのが西村捨三さんでした。その熱心な仕事ぶりや人となりを、我らが郷土名家・みっちゃんに語ってもらいます。〈編集部〉

難事乗り越え五年半

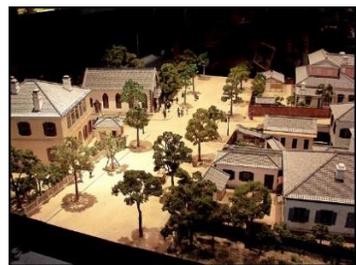
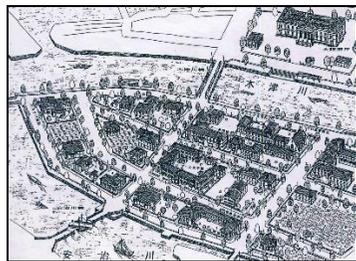
大工事に命捧げた西村捨三翁

明治維新で我が大阪が開市(市場を開くこと)したのは慶応三(一八六七年)十月。これを受けてさっそく翌年(明治元年)七月、かつて安政条約で約束した開港を、英・米・仏・蘭・露の五カ国が「早よせえや」と迫ってきたのです。

◆海はあっても港がない！

しかし海はあっても港がない！ 発足もない新政府は「安治川を八ヶ樋 った川口岸壁を使うしかないや」と大慌てで川口港を開港運上所(税関)を置き、貿易を始めました。同

→川口居留地の鳥瞰図(右上に江之子島の大阪府庁(㊤)と当時の街並みの再現模型(㊦)部分)



時に一五五八〇〇平方メートルをこの地に造成して競売(競争)にかけ、英・米・仏・蘭の各国人たちが落札。これがいわゆる「川口居留地」で、道路が舗装され、洋館が建ち並び、大阪の文明開化発祥の地となった訳です。

やがて明治七(一八七四年)七月、この地の向かい側にある江之子島に「代目大阪府庁」が完成。その余りの立派さに「江之子島政府」とか「西の政府」とも称されたそうですが、正面玄関が西向きで、府民の間では「大阪に背を向けるやないか」と評判が悪かったことから、当時の府知事・渡辺昇氏は「大阪の発展は西方にあり、大阪湾から広く海外に雄飛するためや」と苦し

い言いつ訳をしたか…。

◆ 大型船に対応できない川口港

それはともかく、せつかく開港した川口の波止場ですが、幕末から明治維新にかけての何やかやで安治川口の浚渫がサボられていたため、泥土が堆積し、千ト級の船舶、まして千ト級の外国船舶の入港は困難となり、居留地の外国商人たちも「こらアカンわ」と次第に兵庫港・神戸港へ移動。明治二十(一八八七)年には火が消えたように衰微し、ついには閉鎖の止む無きに至りました。

◆ 繁栄は大坂港建設にあり

かくて「経済都市大阪」崩壊の危機に直面した大阪の人々は「海に臨んだ大阪に港がないのは国際的に恥ずかしいことや」と心機一転、「大阪の繁栄は大坂港建設にあり」とこぞって大



→ 築港事業に白羽の矢が立てられた西村捨三氏

きく声を上げ始めたのです。

しかし「築港」という口を言っても、突堤(防波堤を築いて港内を浚渫し、埋立地を造成することが基本。莫大な費用と長い工期を要することから、政府も大阪市も「うーん」と頭を抱え、なかなか実現には至りませんでした。

◆ 西村捨三氏に白羽の矢

やがて、そんなこんなで開市から三十年、市民が築港運動をあれこれ模索する中、「大阪港建設促進会」という民間イベントの席上、「国や市に顔が利き、人格・手腕・力量とも優れた人物を迎えて陳情してもらおうが早道」との声があり、その線で慎重に人選を進めた結果、内務省土木局長・第六代大阪府知事・農商務次官などの要職を歴任し、当時、北海道成釧鉄道会社の社長であった西村捨三氏に白羽の矢が立ったのです。とじつは、彼の土木局長や府知事時代にも大阪港建設が立案され、実現には至らなかったものの、計画に理解を示し、協力を惜しまなかったことから「築港事業に関係浅からぬ西村こそ最適任者」ということになったのでした。そして年棒六千円という破格の報酬で明

→ 明治三十年ころの天保山略図①と、同年十月の起工式で防波堤辺りに沈められた基石②



治三十二(一八九七)年七月、大阪市築港事務所の初代所長に迎えられたのです。時に西村氏五十五歳。因みに当時の田村太兵衛市長の年棒が三千円だったといいますが、大阪の人々の西村氏にかけた期待の大きさが想像できます。

◆ 起工式は大々的に報道

そつして明治三十年十月十七日、待望の起工式が天保山で行われました。式典には参謀総長・小松宮彰仁親王殿下が臨席されて命令(皇族からの命令書)を授けられ、自らの手で基石(十六百石)を防波堤辺りへ沈められ、西村所長が命令に対して答辞を述べました。当然ながらこの式典は各新聞で大きく報道され、大阪朝日新聞などは一頁大の号外を出して社説を載せ、

盛大な様子を詳しく市民に伝えました。

◆ 難題の越え大棧橋完成

そして、工事は、安治川河口と木津川河口から沖合へ計一本の防波堤を築き、これに囲まれる海面のうち海側の二〇〇万坪(約八六〇万平方びを二〇尺)約一〇センチの深さに浚渫、その土砂を利用して内側に二五〇万坪(約四九五万平方び)の埋立地(現在の港区築港や海岸通)を造り、そこから海へ伸びる大棧橋を築造する—と、いつ大がかりなものでした。

が、このように工事がかかると、頭痛鉢巻の工事費捻出(市予算の三十倍)をはじめ、コンクリートブロック干裂事故、石材供給地の選定、石材運搬船第五大島丸沈没事故(船長以下二



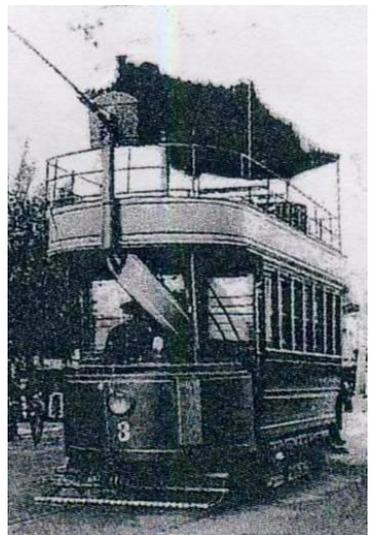
→ 築港起工式を伝える当時の朝日新聞号外

十一名死)などの難事、難題が相次ぎました。しかし壮大なスケールにもかかわらず、西村氏が築港事務所長として在職の五年五月、作業そのものは沖野工事長以下、優秀な部下の奮闘もあって概ね順調に進捗し、明治三十八(一九二三年)七月二日、遂にその中核施設、築港大棧橋(今の中央突堤辺り)の完成を見たのです。同年三月には西区花園橋から築港埋立地までの約五キロに築港大道路が完成。九月十日には同区間に大阪市最初の市電が開通し、大阪は祝賀ムードに沸きました。翌年には、階付き電車も登場し、大変な人気だったといえます。

◆ 脳溢血で倒れる

一方、西村所長は築港事業の大任を背負って以来、粉骨砕身して事に当たっていましたが、大棧橋完成一年前の明治三十五(一九〇二年)夏、翌年に大阪で開かれる第五回内国勸業博覧会(公覧)覧業のため香川県を巡回中、猛暑の中、多度津で脳溢血に倒れました。その後、大阪で療養したのですが、容易に恢復せず、大棧橋完成を皆で祝つていながら、明治三十八年二月十二日、築港事務所所長の職を辞任します。

→ 明治三十六年三月の築港大棧橋完成を前に開通した築港大道路を走る「階付き市電」

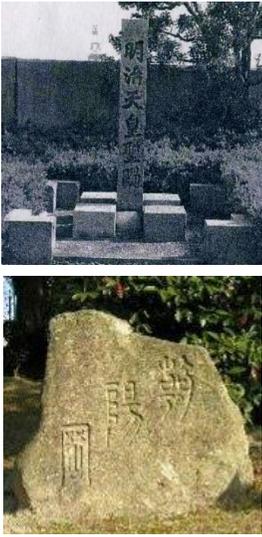


そんな中で同年五月八日、天王寺区で開かれていた内国勸業博覧会(三〜七月)への行幸(天皇のお出かけの一環)として明治天皇が築港大棧橋を訪れました。この時、西村翁は天保山の公舎に静養中で、築港功労者として拝謁(身分の高い人に会うこと)の内訓(内々の知らせ)を受けていましたが、「病体での拝謁は畏れ多い」と拝辞(お断わり)しています。明治天皇は「西村は病気があったが、可哀想である」とのお言葉と共に五十円を賜(たま)われまじった。その時の記念碑「明治天皇聖蹟碑」が中央突堤に至る防波堤の内側に今も建っており、その側面には「築港事務所」の文字が刻まれています。

◆「衣冠の俠客」六十八歳で逝去

その行幸から十日後の五月二十日、西村翁は郷里・彦根に退隠しましたが、大阪朝日新聞社主筆で漢字者の西村時彦(天囚)氏はその隠退を惜しみ、社説に「同翁の数々の功績と功徳を讃え、その愛すべき性格を『衣冠の俠客』地位があり義侠心にも富んだ人」と称しました。そしてこの五年後の明治四十一(一九〇八)年一月十四日、故郷で逝去。行年六十八。葬儀は「彦根市始まって以来、今日に至るも未だこれほどの盛大な葬儀めらず」と古きが伝えるほど立派なものだったといえます。

◆天保山公園に銅像と朝陽岡の碑



→明治三十六年明治天皇の築港大棧橋行幸を記念した「明治天皇詔諭の碑」①と、西村翁が自宅の庭に置いていたといふ「朝陽岡の碑」②

さて現在、港区・天保山公園内の南万、椅子に座った大きく立派な銅像の人物が西村捨三その人です。この銅像は昭和三十二(一九五七)年

大阪築港九十周年を記念し、同港創業の功労者を顕彰するため、かつて築港事務所や公舎があったとされる場所に建てられたもの(制作者は羽柴小枝子さん)。その後方には旧藩主井伊家の殿様から拝領(目上の人から頂戴)し、自宅の庭に移して朝夕愛でていたといふ「朝陽岡」と刻まれた石も置かれていますが、同翁がこの石をどれほど好んでいたかは、その法名「朝陽院殿有信軒処大居士」にまでこの石の名が謳われていふところからも窺えます。

◆サントリーと天保山の不思議な縁

このころ今年八月十七日に八十四歳で亡くな



→衣冠束帯スタイルの西村捨三翁

←天保山公園内に建立された西村捨三翁の銅像



った画家の柳原良平氏は、西村翁のひ孫にあたるそうです。同氏は往年のサントリーのCMキャラクターアンクルトリスの生みの親で、こよなく海や船を愛したといえます。そういえば天保山にはサントリーミュージアム「天保山」がありました。が、何か不思議な縁を感じずにおれません。因みにサントリーミュージアム「天保山」は平成二十二年(二〇一〇)年に閉館し、大阪市へ寄贈。平成二十五年(二〇一三年)「大阪文化館・天保山」として再オープンしました。

※参考資料 『西村捨三翁小伝』(故西村捨三翁顕彰委員会発行)、『大阪港史』、『港区誌』、『明治天皇大阪行幸誌』

〈小西典 港区田中在住の郷土史研究家〉

みなと

人生

劇

場

場

港区民の手記をまとめた、地元在住の作家・青木健一さんがつづいた「正地」ドラマ。第八弾は、田中在住の九十年代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしん」。

こううんばし そら

幸運橋の空 (十二)

(前編まで) デイサービスに通う久美子は次男の勤めで回想録を残すことになった。――大正十一年、六人兄弟姉妹の長女として浪速区に生まれ、久美子は、博打に目がない父に苦労させられながら、奉公の連続で家族を助けた。引越先の港区で廿二年間の子守奉公。十三歳でようやく家族と別流。母は宮元海産物店で一家を支えた。戦火拡大する昭和十七年暮れ、近所の船大工の次男・大東正義と見合い結婚。物不足の中でも新婚の感慨に浸っていたある日、喜びを掻き消すよひな物を久美子は見てしまった――

● 夫は結婚前に「千恵子」と遊んでいた

夫は筆を止めて、何冊かの日記をつけていた。久美子が掃除で机の上を整理していた時だった。日記を持ち上げた拍子にはらりと開いた頁から「千恵子」といつ文字が目飛び込んだのだ。びっぴりして次々と頁をめくった。するする出るわ出るわ、「何日何日、千恵子と一緒に遊んでこへ遊びに行った」など、その名前は日記のあちこちから繰り返して現われたのである。

仕事から戻った夫に訊を尋ねた。それによると「その千恵子」といつ女性はいく久美子と同じ年、義父(正義の父)が経営する材木販売所の店員だった。義母(正義の母)は「よっ働く娘や」と気に入り、息子と結婚させようといとまで思っていたそうだ。そして確かに結婚前、彼女とは何度も一緒に遊んだ仲だったと夫は白状した。

「あんた、何で黙ってたん?」女の人が男の人とこいつについて付きあひつゆつとは、よっぼど好いてたからやで。何ぞその人をもろこつてあげんかったん?」

久美子は問い詰めるように訊き返した。しかし夫はきょぼぼと言った。

「遊びと結婚は別や!」そのへらへらにめは弁えてる。何も手懸けた訳やない。後ろめたいことは何もしてらん?」

あとで分かったことだが、その千恵子という女性は久美子の嫁入りの日、大きなガラスケース入りの「汐汲(歌)舞伎舞踊の二系統」の日本人形を「正義さんと渡して下さ」と義父・保太郎に託したそうだ。披露宴の場でも大勢の陰から正義らを見ていたといつのだ。

久美子は同じ女として、また久美子の母が父の女遊びで苦労したのを知っていたので、彼女の辛い気持ちが痛いほどに分かった。そして、自分の幸せと対比した彼女の境遇が可哀想でならなかった。

● ついに夫に召集令状、すべし出征

そんな出来事も孕みながら、戦時下の新婚生活は慌ただしく流れたが、結婚後一年もたない昭和十八年の十月、夫に召集令状が届いた。その少し前には現役時代(中国戦線への一回目の出征)の功績が認められて「勳七等」を授与され、皆々喜び合ったといつだったが、それを打ち消して余りある衝撃だった。

それは一人で港劇場へ映画を観に行った帰りの
だった。一階のベランダで待っていた義父母が
「正義さん、ちょっと」と呼び、二人で何やら
話し始めたのだ。久美子が自分たちの寢室で
布団を敷いていると、夫が一枚の赤い紙切れを
示しながら入ってきた。

「久美子、とっとう来たぞ」

「なにが？」

召集令状だった。しかも入営日は翌々日。久
美子は「うわー」といつ何とも言えない思いに
突き上げられた。目には見えない涙が溢れた。

翌日、久美子は夫と京阪電車で京都府八幡市
の石清水八幡宮へ向かった。戦地での無事を祈
願するためだった。結婚以来、近くの映画館へ
はよく行ったが、遠くへ出かけたことはなかつ
たので、新婚旅行のような気分でもあった。

しかし、往きの車中で久美子は気分が悪くな
り、二人は途中の駅で降りた。前の晩、辛くて
よく眠れなかったからだった。駅の近くの家で
横にならせてもらっていたが、恢復せず、結
核菌に感染していた。

帰ってしばらくして事情を知った久美子の父は「せ



つかくお参りに行ったのに、気分が悪なるやな
んで…」と久美子を語った。

その翌日が出征日だった。夫の配属先は大阪
の法田坂にあった「四師団」。「秘密召集」とい
うことで多数の見送りは許されず、久美子と
久美子の父・弥太郎、それに夫の長姉だけが付
き添った。何とも寂しい出征風景だった。入営
時刻の朝十時少し前、赤煉瓦兵舎の奥へ夫が消
えて行った時の、言いようもなく辛かった気持
ちが久美子には今でも思い返される。

頭が空のようになつてしまった久美子は、そ
の日の午後一時ごろ帰宅したあとも、部屋の中
で何もせず、ぼーっとしていた。又方誰かに声
をかけられて初めて、朝食をとるのも忘れてい
たことに気付いた。

● なかなか届かない夫からの便の

夫は陸軍の「軽機関銃要員」として南方のス
マトラへ派遣されたといふことだった。恐ろしく
現役の時にさういふ任務に就いていたからだろ
う。夫は広島県宮の百姓家に一泊し、呉港から
二十隻ほどの輸送船団で現地へ向かった。が、
夫らより先に出発した輸送船は米軍の機雷に触
れ、甲板から船底まで武装兵を満載した船は、
あえなく台湾沖に沈んだという。幸い夫の船は
難を免れ、日本を出港後、二月月かかってよう
やくスマトラに到着したとつた。

夫の出征後、久美子は、寝泊りは義父母の家
の別宅（つまり久美子ら夫婦の新居）で、食事
は実家で実の父母ととる、といふ生活になっ
た。すべ下の妹の電子が「寂しいやろ？」と時々
泊りに来てくれるのが嬉しかった。

夫からの便りはなかなか届かなかった。軍隊
の事情に詳しい近所の人から「秘密召集やから、
そのうちまた内地へ呼んでくれる
わ」などと慰めてくれたが、久美子は心配で
たまらなかった。その間、久美子らは戦地の兵
隊のために、せっせと慰問袋を送っていたりして
いた。

(つづ)

平和のため

戦争体験

語り継ごう

もり しげあき
森 茂明さん(九〇) 八幡屋在住 ①



※今月から、港区八幡屋に生まれ育ち、第二次大戦末期に航空兵としてシヤワ、北朝鮮を転戦、戦後は書籍販売業「オリオン書店」で港区の文化発展に尽くしていられた森茂明さん(九〇)は八幡屋在住。この体験を語りついでます。

軍国少年として「お国のため」願い

大戦末期に航空資格得る

私は大正十四(一九二五)年九月、大阪市港区八幡屋に生まれました。父は大阪港で船を操る海運業者でしたが、私が小学一年の時に亡くなりました。母は父「きよめ」と、昆布売りの行商をして六人の子供を育てました。私はその第四子(三男)でした。

◆航空兵を夢見く養成所へ

私は八幡屋尋常小学校から東田中高等小学校(三年制)へ進みました。学校では、奉安殿(天皇皇后西陛下)の写真を保管して鉄の扉で閉じた小さな建物の前では必ずお辞儀をし、授業では「鬼畜米英」や「神國」などの言葉がしきりに使われるなど、当時の教育の影響で、私は完全な軍国少年に育っていました。

それで早くから「一生懸命勉強してお国のために死のついでに考え、飛行兵として活躍すること」を夢見ていました。が、徴兵年齢(満二十歳)には達し、それではもう切替えずに何とか飛行機に乗れる道はないものかと方法を探っていたのです。また陸軍兵として中国へ出征していた九歳上の長兄「浅一」が二十代後半で戦病死したとの公報に家族みんなが悲しんだことも、「兄さんの分までお国のために頑張ろう」と報国の気持ちをいつくしく募らせていました。

「軍国少年だった高等小学校時代の十三歳くらいの私」昭和十四年頃か



そんな時、たしか高等小学校を卒業して市岡四丁目の若山鉄工株の工作機械の仕上げ工として働いていた昭和十八(一九四三)年ごろ、何かの雑誌で「予科練(小学校高等科または中学校四年修了者を対象とした志願制の海軍航空兵養成制度)、少年航空兵(徴兵年齢に達していない男子を対象とした志願制の陸海軍航空兵)

続け、「こ」と呼びかける「京都航空機乗員養成所」の募集広告を目にしたのです。私は迷うことなく「こや、こや」に応募しました。

入所試験では、飛行機乗りとしての適性検査などがあり、全国から「我こそは」とたくさん愛国少年が応募してきただけに、競争率も約十倍の非常に高かったのですが、幸い受かることができました。

◆ 厳しい訓練も苦にならず

同所は京都府久世郡九御山町（現・久御山町）にあり、全寮制でした。当時の通信省航空高等民間パイロット養成のため全国十四カ所に設けた専門学校の一つで、昭和十七（一九四二）年四月に開設されたのに戦局が厳しくなった同十九（一九四四）年九月、陸軍に接收されて陸軍飛行学校となるまで、一年半の歴史を辿りました。

生徒は、小学校・高等小学校卒業の本科生（二年制・五年制）と、中学卒業の操縦生（二年制）から成り、閉校までに四百二十人が学びました。このうち操縦生は百八十人で、短期教育で軍隊へ送り込まれ、うち四十八人が空中戦や特攻などで戦死したといわれています。

← 厳しい訓練で航空兵を養成した「京都航空機乗員養成所」時代の私（左端）。後ろは「赤トンボ」と呼ばれた複葉の訓練機（昭和十九年頃）



私はこの操縦生として入所し、「こ」で十七歳から十八歳までの一年間、飛行兵となるための訓練を受けたのです。

授業は飛行機の構造などを頭に入れる学科と

実際の操縦法や落下傘降下法などを身に着ける実技があり、実技では生徒四〜五人に教官一人が付き、訓練用飛行機一機が与えられました。訓練機は単発（エンジンが一つ）で複葉（二枚翼）の軽飛行機で、その形や色から「赤トンボ」の愛称が付いていました。

短期に実戦力へ育て上げるため、朝八時から夕方六時まで、何かといえば拳骨が飛び軍隊式の苛酷な訓練が続きましたが、国のために働けるという気高い目標、それに自分で飛行機を操縦できるという楽しみに支えられ、決して苦しいとは思いませんでした。

◆ 晴れて航空士・操縦士に

そして全ての課程を終え、最後に実地試験・学科試験と体格検査に合格した私は、昭和十九（一九四四）年三月、晴れて「等航空士」と「二等航空機操縦士」の二つの免状を取得することができたのです。前者は飛行機を安全かつ効率的に目的地へ運ぶための航続距離や進路を割り出したり天候を予想したりする資格、後者は飛行機（九五式三型と同一型を自分で操縦できる資格）でした。

みなとカルチャー

● 関西フィルハーモニー管弦楽団「いずみホ

ルシリーズVol. 39」クラシックの魅力

を再発見する同楽団人気シリーズの三十九回目。

「不滅の輝きを放つトルソ」：テュメイの「未完

成」と題し、クラシック界におけるヨーロッパ

の伝統の継承者として、また今世紀最高のヴァ

イオリニストの一人として高く評価されている

関西フィル音楽監督オーギュスタン・テュメイ

さんの指揮で、シューベルトの代表曲にして

謎に満ちた「未完成」などを贈る。演奏曲目は、

①シューベルト：「ロザムンド」間奏曲 第3番



→ 指揮を担当するオーギュスタン・テュメイさ

ん © T. Dagonan

→ ヴァイオリン独奏を担当するエステル・ユーン
さん © Marco Borggreve



D. 797-3 ②シューベルト：交響曲 第7

(8)番 口短調 D. 759 「未完成」 ③ブラー

ムス：ヴァイオリン協奏曲「長調」作品17。

二〇一〇年の第十回シベリウス国際ヴァイオリ

ンコンクールで当時最年少の十六歳で三位入賞

二二年の第七十五回エリザベート王妃国際音楽

コンクールでは十七歳で四位入賞し、世界を驚

かせた実力派ヴァイオリニスト、エステル・ユ

ーさんが、ブラームスのヴァイオリン協奏曲で

独奏に挑む。十一月二十九日(日)十五時からい

ずみホール(JR環状線「大阪城公園駅」徒歩三分、

JR環状線「東西線」京橋駅「南口」歩八分、地下鉄

長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク駅」歩五

分で。S席五千円、A席四千円(全席指定・消費

税込)。無料託児サービスあり(先着二十名、申
込締切十一月十七日)。☎六五七〇・二三八一。

● 港図書館 ①図書展示「食育の本」展 十一

月二十九日(日)まで開催中。生きるために欠か

せない「食」について見直し、心豊かな食生活の

ために食に関心をもってもらえるような本を展

示②あかちゃんのおたのしみ会 毎月第一金曜

日(十一月は六日)の十一時～十二時半に絵本コ

ーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、赤ちゃん

が絵本に親しめるよう工夫。申込不要③せんの

風のかみしばい 十一月七日(土)十五時半

～十八時に絵本コーナーで。申込不要④おたの

しみ会 毎週水曜日十五時半～十八時に絵本コ

ーナーで。幼児から小学校低学年を対象に絵本

の読み聞かせや紙芝居、パネルシアターなど。

申込不要⑤第十八回図書館フェスティバル「秋

のごども会」 十一月十五日(日)十時半～十一

時半に港区民センター「階」橘」で。秋の季

節にちなんだ絵本の読み聞かせなど(色々なお話

申込不要) ☎六五七六・二三四六。

● 弁天町オーラ200生涯学習センター・弁天

シネマ倶楽部「断崖」 「心に残る名作映画を

低料金で多くの市民にとり、弁天町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第八回、通算第四十一回。同じ列車に乗り合わせた資産家の娘リナとブレボーイのジョニーは急速に惹かれ合い結婚。が、間もなくジョニーは浪費家で嘘つきであることが発覚。リナはジョニーに仕事を勧め、従弟の財産管理を任せるが、その使い込みを知る。リナの疑念は裏切り、保険金目当てに殺されるのではと疑い始める。ある日、実母に会いに行けりナをジョニーは無理やり車で送るが、車は断崖を自爆して突き進む。監督はアルフレッド・ヒッチコック。出演はケリー・グラント、ジョン・フォントイン他。一九四二年、アメリカカラ



→ 弁天シネマ倶楽部『断崖』から

、九九分。十一月七日(十七)十時と十四時から講堂で。料金は一人一回八百円(前売五百円)。定員は各回先着百名。☎六五七七一・四一〇。

● 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」

旧・弁天町市民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第九回、通算第五一回。十一月二十五日(水)十時〜二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭堂南麟さん(大阪出身の講談師、旭堂南陵門下)をレギュラーに、今回は桂坊枝さん(大阪市旭区出身、故五代目桂文枝の弟)、林家笑丸さん(大阪府交野市出身、林家染丸の弟子)



→ 弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」にレギュラー出演する笑福亭學光さん(上)と旭堂南麟さん(下)

← 第二五二回オーク弁天寄席に出演する桂坊枝さん(上)と林家笑丸さん(下)



も。先着百十名。当日五百円、前売四百円。

オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。☎六五七七・一四一〇。

● ギャラリーはたなか 笹岡茂彦作品展

「シアタープリア」十月二十九日(木)〜十一月八日(日)の十一〜十九時(最終日は十七時まで。四日(水)は休廊)。磯路一・一・五(港区役所向かい)。☎六五七七・一五九八七。

● 市岡寄席

市岡住民が運営する地域寄席の八回目。「みんなで応援・活用 市岡の地域人材」を謳い文句に市岡在住の落語家、桂福丸さん(桂春團治一門)の落語一席を楽しむ。十月十九日(月)十九時から紫雲山西明寺(市岡一

・一・四)で。先着六十名。菓子付き。豪華景品が当たる抽選会あり。車イスでも入場可。運営協力金としてのカンパ歓迎。主催は市岡寄席実行委員会市岡地域活動協議会広報部云、市岡連合振興町会、紫雲山西明寺、繁栄商店街振興組合など市岡にゆかりの諸団体や個人から成る。桂福丸さんは灘中・灘高・京大卒。英語落語でアメリカ公演も。〇七年桂福団治に入門。名付け親は作家の故・藤本義一氏。天満天神繁昌亭出演中。TV番組(ニユーススクランブル)などやラジオ番組(毎週土曜十四時半〜十五時に弁天町のラジオ大阪言葉のことバカリ)にレギュラーでも出演。著書に『怒られカ』(明治書院)。☎六五七一・五八二六 西明寺。



→過去の市岡寄席①とシャンテ☆カフェ②

●ねじやらしのシャンテ☆カフェ 懐かしい歌にきいも若きも声を合わせる月例イベント。毎月第四土曜十四時から港近隣センター(八幡屋一・四・二〇)で。不定期にゲストを迎え、リクエスト中心に約一時間。新オリジナル歌集を頒布中。参加費千円(税込)。十月は二十四日。問い合わせは「ねじやらし音楽事務所」(弁天四・一・一・一・三〇二、☎八五五六・六八二八、<http://necocojyara.sii-jimdo.com/>)まで。

●日本一の山のでっぺんで歌おう〜天保山山頂つたこえ広場 シャンテ☆カフェ 懐かしい歌にきいも若きも声を合わせる月例イベントねじやらしのシャンテ☆カフェ(前項の野外バーション。十月十八日(日)正午〜十五時に天保山山頂公園で。歌声タイムは十二時半〜十三時十分と十四時十分〜十五時の二回。他にお話、手弁当ピクニック、協力店舗PRなどのタイムも。参加無料。雨天中止。問い合わせはねじやらし音楽事務所(前項)へ。

●川島恵美子作品展 平和の願いをキャンバスに込めて絵画人生を送ってきた川島恵美子さん

→川島恵美子作品展が開かれるガレリア・リリア(三先)①と展示予定作品から「ニルギリ峰とマルファール村」(油彩、F100号)②



(八四)＝八幡屋在住IIが昭和三十八年からほぼ毎年開いてきた個展。五十三回目。リアリズムを基調にした迫力と温かみのある風景描写が特徴。油彩・水彩・スケッチなど。十月十八日(日)まで開催中。十一〜十八時に画廊&アトリエガレリア・リリア(三先一・三三二八、みなと通沿い、地下鉄朝潮橋駅すぐ)で。入場無料。☎七五〇二・四一八八。

●シネ・ヌーヴォ『没後二十年記念 映画監督・浦山桐郎の全貌』 寡作ながら『キュー・ポラのある街』などの名作を残し、吉永小百合らの女優を育て上げた浦山桐郎監督の没後二十年を記

念し、その全九作品を十月十七〜二十日に特集上映。若者の前に立ちほだかる社会問題や人生問題をこつこつ描くが、納得いくまで追求し続けた苦闘の軌跡を辿る。上映作品は『キューポラのあゝ街』『非行少女』『私が棄てた女』『青春の門』『青春の門 自白篇』『太陽の子よてだのふゆ』『龍の子太郎』『暗室』『夢千代日記』『映画監督・浦山桐郎の肖像』(ドキュメンタリー)。当口一般千四百円。上映スケジュールなど詳細は回館(西区九条一・二〇一四)地下鉄中央線九条駅⑥出口歩三分、阪神なんば線九条駅②出口歩三分、公八五八一・一四二六へ。



→貧しくも健気に生きる姉弟を描いた『キューポラのある街』①と絶望的環境に置かれた少女の非行と立ち直りを描いた『非行少女』②

←ガットネロを主宰する松浦由美子さん①と「うた☆カフェ」出演のHAMORI・BE②



●ガットネロ 市岡在住の社会派シャンソン歌手・松浦由美子さん主宰の音楽喫茶。「シャンソン百物語」HAMORI・BEのうた★カフェ

「シャンソン百物語」HAMORI・BEのうた★カフェ エ「クラシックカフェ」など毎月多彩な企画▽松浦由美子のシャンソン百物語 第九十四回「ピアノ」①十月二十五日(日)十五時から。ピアノ 藤田稔。会費 千五百円(一飲物付)▽クラシックカフェ第八十一回①十一月八日(金)十九時から。「晩秋に響くクラフネット」ピアノの響き」と題して井上春緒(クラフネット)と花本優(ピアノ)。会費 千円。定員十五名。要予約▽アクトライブ第十五回①十一月八日(日)十五時から。宮崎おさむ(ドラム)と服部道雄(うた)と中條タケシ(ピアノ)と加藤ユウジ(ベース)。チャージ

千円▽詳細はガットネロ(天王寺区上本町六・二・三七)地下鉄谷町九丁目駅①出口、公六七六七・〇〇二二ド。

●ぎやらのー&かふえ風庵「石の不思議なハフ

鬼塚信 作品展 「アートは潤い」誰もできないことをやる」を「コンセプト」に大阪のアーティスト鬼塚信さんが一点一点心を込めて完全オリジナルハンドメイドで創作したパワーストーンの数々を一堂に。複数の鉱石を溶かせ合わせるなど多様な加工を施した造形が注目を集めている。十月三十日(金)まで開催中。風庵は南市岡三二・一〇(繁栄商店街内)、公四九六五・五九八(十時〜十八時開館(日曜定休)。



→ぎやらのー&かふえ風庵「石の不思議なパワーストーン」鬼塚信 作品展」に展示中の作品から

ひとくちPR

(二行)税込二〇〇〇円、写真は別料金相談

● **新しい作業所でお仕事しませんか** 障害者

手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。就労支援B型作業所 相談支援事業所わたぼうし(夕凧一・一八・一〇、**〇八五七六・〇一〇〇**、FAX六五七六・〇一〇三)。

● **ボクササイズでシエイプアップ** 女性も小

中・高生も楽しく練習。月会費八千円(三カ月期限十枚綴りチケット八千円)。入会金二万円を只今半額。練習日は月・水・金の十九時半〜二十一時半。港ホクシングジムは三先一・一三・九。

● **囲碁クラブ** 毎月第一・四十曜の午後二〜五



→ 港ホクシングジムのトレーニング風景(三先)

④と囲碁クラブの対局風景(港近隣センター)

時に港近隣センター(八幡屋一・四・二〇)会議室で。参加費一回五百円。家族的雰囲気。**〇九〇・二二九八・八四四三**瀬江。

● **そろばん学習でもが変わる！** 右脳活性化

見直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友総合教室 **検案**(夕凧一・一三七三津神社西側 **〇八五七二・一六八七七**)。

● **放課後・春夏冬・休みは学習保育へ** 入所見募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを

指導。体験可。携帯**〇九〇・五八九一・〇三三四**西原か**〇八五七二・一六八四三**あおぞら学習室。

● **あなたのふとんが生まれ変わる** 綿も羽毛

も掛も敷も、熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛(敷)ふとん一万円〜。ふとん館ひらのや(南市岡二・二・一八 繁栄商店街東入口フリーダイヤル**〇二〇・四二四九・五五**)。

● **石炭倉庫のレッスン** 所作、歌唱、朗読、三

味線。一回千円。波除ハ・五・一八、**〇八五八一・〇六六四**、FAX六五八一・二六七〇。

● **おしゃれ着いっぱい** 神戸メーカー直送、お

出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブ

ティック・ミント(八幡屋一・四・八、入舟公園前、大阪信金横、十〜十八時営業、日月定休)。

ひとくち伝言板

● **可哀想な捨て猫に愛を** 海岸通で八月初の発見。生後三カ月半の黒三匹・雑一匹。最期まで世話できる方。**〇九〇・五八九八・一九四五**松田。



読者プレゼント

※いずれもハガキに各自の感想とプレゼント名を書いて十日必着で港新聞へ。

● **関西フィル「いすみホールシリーズ39」**(みなとカルチャー)招待券を、へア一組に。

● **弁天シネマ倶楽部「断崖」**(みなとカルチャー)招待券を、へア一組に。

● **「ごらくとんぼ一座『駅前人情旅館』**(演劇ガイド)招待券を、へア一組に。